

別紙2. 2. 2 ライフサイエンス分野における戦略重点科学技術の進捗状況

本表は、各府省から提出された施策の進捗状況に関する調査結果(各府省の自己評価や当該施策に関する外部委員会等の評価結果による)を整理したものである。

「3年間の予算」

研究開発目標に対応する各府省の施策の平成18年度から平成20年度までの予算額を合計したものである。複数の研究開発目標に関連する施策の予算額については、重複して計上している。

○「研究開発目標の達成状況」

研究開発目標に対する2008年度末時点での達成水準を以下の5段階で表している。

- ：すでに計画期間中(2010年度末まで)の研究開発目標を達成した。
- ：当初計画以上に進捗しており、計画期間中の研究開発目標達成まであと一歩のところ。
- ：当初計画どおり、順調に進捗している。
- ：当初計画と比べて、若干の遅れが生じている。
- ：当初計画と比べて、かなりの遅れが生じている。(研究開発目標の達成が危ぶまれる状況)

戦略重点科学技術	概要	研究開発目標	3年間の予算(億円)	研究開発目標の達成状況	目標達成のための課題
		○2010年までに、各種生命現象において重要な役割を果たしているが、現在の技術水準では解明が極めて困難なタンパク質の生産、解析、制御に必要な要素技術を開発する。【文部科学省】	107	■ ■ ■	タンパク質の構造・機能解析の技術開発と個別のタンパク質の構造・機能解析を実施し、引き続き要素技術開発を進める。また、開発した要素技術の有用性の検証と、個別のタンパク質への適用をスピーディーに行う。
		○2010年までに、ゲノム、RNA、タンパク質、糖鎖、代謝産物などの相互作用を集中的に解析し、各種疾患、動植物の生命現象システムを解明するためのネットワークを描き出す。【文部科学省】	83(及び4の内数)	■ ■ ■	これまで進めてきた基盤技術や解析手法の開発をさらに進めると共に、高度化し、広く活用できる技術となるように開発・整備を進める。また、分子システムにおける分析・検討をさらに進めるほか、タンパク質の翻訳後修飾やエピジェネティクスに関連する高次生命機能の調節を目的としたスクリーニング系を構築し、阻害剤の探索を実施する。
		○◇2010年までに、ゲノム解析データや情報技術などの活用と融合研究による細胞や生体のシミュレーションプログラムを開発する。【文部科学省】	14	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
		○2010年までに、糖鎖や糖タンパク質などの機能を分子レベルで効率的に解明するための技術を確立するとともに、産業利用を目指し、糖鎖の機能解析・検証技術を開発する。【経済産業省】	34	■ ■ ■	糖鎖の効率的な分画・精製・同定技術の開発、糖鎖の機能解析・検証技術の開発、糖鎖認識プローブの作成技術の開発、糖鎖の大量合成技術の開発を継続的に実施する。
		○2010年までに、機能性RNAを解析するためのツール(インフォマティクスや高感度な定量解析技術)を確立し、疾患に関連する機能性RNAの機能を解明する。【経済産業省】	26	■ ■ ■	機能性RNA候補を抽出するための情報処理技術、微量なRNA配列を解析する技術、RNA機能を解明する手法の確立を実施し引き続き要素技術の開発を進める。
		◇2010年代までに、ゲノム、RNA、タンパク質、糖鎖、代謝産物等の構造、機能と、それらのネットワークを解明することを目指し、解析に必要な基盤技術を開発し、これらの分子の構造・機能を解明する。【文部科学省、経済産業省】	215(及び4の内数)	■ ■ ■	タンパク質の構造・機能解析の技術開発と個別のタンパク質の構造・機能解析を実施し、引き続き要素技術開発を進めるとともに、開発した要素技術の有用性の検証と、個別のタンパク質への適用をスピーディーに行う必要がある。また、超高速シーケンサーを活用して高精度の実験結果を得るためにCAGE法の開発整備やバイオフィンフォマティクス技術を開発する。
		○2010年までに、生命階層(ゲノム、RNA、タンパク質、代謝産物など)の動態解明を行い、細胞や生命体をシステムとして理解する。【文部科学省】	5	■ ■ ■	分子システムにおける相互作用の分析・検討をさらに進める。
		◇2015年頃までに、細胞や生命体をシステムとして統合的に理解するとともに、システム変化による新規機能を創生する。【文部科学省】	5	■ ■ ■ ■	分子システムにおける相互作用の分析・検討をさらに進める。
		○2010年までに、脳の重要な認知機能とその臨界期、情動、意志決定、コミュニケーション、社会の中での人間の振る舞い、老化の基本原則を明らかにする。【文部科学省】	296	■ ■ ■	fMRIなどの最先端装置を駆使した人間レベルに関する実験例証をいっそう増やし、動物実験の結果と関連付けることによって、よりいっそう複雑な精神の構造を明らかにする。
		○2010年までに、免疫の高次統御システムについてリンパ球機能制御や免疫応答制御に関する新たな知見を得て、ワクチン等の新たな治療・診断法を確立する。【文部科学省】	(103の内数)	■ ■ ■	「ミクログスター」によるT細胞制御のメカニズムは、喘息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、リウマチなどの自己免疫疾患への新しい治療法、移植医療に対する免疫抑制剤、またがん治療に対する免疫賦活剤の新しい開発法への可能性を示しており、安全で効果的な免疫治療法を確立する。
		◇2020年頃までに、脳の認知機能や発達機構、情動と社会性の発達機能や、免疫の高次統御システムを解明する。【文部科学省】	17	■ ■ ■	脳科学研究戦略推進プログラム内で目標達成に向けた事業を推進する。
		◇2015年頃までに、免疫の高次統御システムを解明し、免疫・アレルギー疾患の克服のための新規免疫療法等を開発する。【文部科学省】	(103の内数)	■ ■ ■	白血病などの血液系腫瘍へのがん免疫療法への応用を図る。
		○◇2010年までに、シグナル伝達や細胞間相互作用などからの正常発生システムにおける細胞分化、組織・器官形成、疾患の発症システム等の解明を通じて、再生医療に向けた幹細胞利用技術等の基盤技術を開発する。【文部科学省】	142	■ ■ ■	生命体の統合的理解に向け、従来の細胞・発生生物学の手法に数理科学的発想を取り入れた研究開発を平成21年度より開始し、一層活発な研究活動を促進する。また、得られる成果の再生医療への応用を見据え、臨床研究機関との連携も常に模索する。
		○2010年までに、脳型情報処理技術を開発する。【文部科学省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。

生命プログラム再現科学技術

発生過程を含む生命のプログラムを再現し、生命を統合的に理解する技術

○2010年までに、脳科学の重要な研究成果をデータベース化し、分子から行動までの各層のデータの統合を実現する。【文部科学省】	17	■ ■ ■	脳科学研究戦略推進プログラム内で目標達成に向けた事業を推進する。
◇2015年頃までに、脳の情報をシステムのレベルで取り出し、実時間でコーディングし、情報通信機器と相互作用させる脳・機械インターフェイスを開発する。【文部科学省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
◇2015年頃までに、脳や心の病の克服に道筋をつけることを目指し、脳の認知機能や発達機構、情動の発達機能を解明する。【文部科学省】	17	■ ■ ■	脳科学研究戦略推進プログラム内で目標達成に向けた事業を推進する。
◇2015年頃までに、脳の働きをロボットに反映させるシステムを確立する。【文部科学省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
◇2030年代までに、脳の情報処理システムに基づいた脳型コンピュータを開発する。【文部科学省】	279	■ ■ ■	人間の思考に係る各種の神経回路モデルを総合的なモデルとして計算論的に提示し、脳型コンピュータ開発のための知見を得る。
○2010年までに、脳の重要な認知機能とその臨界期、情動、意志決定、コミュニケーション、社会の中での人間の振る舞い、老化の基本原則を明らかにする。【文部科学省】	17	■ ■ ■	脳科学研究戦略推進プログラム内で目標達成に向けた事業を推進する。
◇2020年頃までに、脳の認知機能や発達機構、情動と社会性の発達機能を解明する。【文部科学省】	279	■ ■ ■	情動や学習に関わる神経回路メカニズムの総合的な促進を行っていく。
○2010年までに、網羅的な植物代謝物解析基盤(メタボロームプラットフォーム)を整備するとともに、植物の代謝、形態形成、環境応答など特有な制御・応答システムについて新規の因子や遺伝子を発見し、生産力向上に	48	■ ■ ■	体系的な代謝物と遺伝子探索のための設備整備が必要
◇2015年頃までに、イネ等の作物や植物の生長、形態形成、環境応答など特有な制御・応答システムを解明し、有用な遺伝子や代謝産物を同定する【文部科学省、農林水産省】	48	■ ■ ■	体系的な代謝物と遺伝子探索のための設備整備が必要
○2010年までに、収集した遺伝資源から新たな有用遺伝子を単離し、機能を解明する【文部科学省、農林水産省】	48	■ ■ ■	体系的な代謝物と遺伝子探索のための設備整備が必要
◇2015年頃までに、医療分野とも連携し、科学的評価に基づいた機能性食料・食品の生産に必要な技術を確立する【文部科学省、農林水産省】	48	■ ■ ■	遺伝子組み換え作物のメタボローム解析に基づく安全性評価技術の確立
○◇2010年までに、食品等の安全性を科学的に確保するため、遺伝子組換え食品の意図せざる新規代謝物等々の発現等を検証する手法を確立する【文部科学省、厚生労働省】	48	■ ■ ■	遺伝子組み換え作物のメタボローム解析に基づく安全性評価技術の確立
○2010年までに、生産から加工・流通及び消費にいたる一連の過程の中で、リスク分析などに基づいた食料・食品の汚染防止や有害要因低減の技術や信頼確保に資する技術を開発する。【農林水産省】	(5の内数)	■ ■ ■	レギュラトリーサイエンスの専門性をもった研究者の層が薄いため、研究を推進しつつ、人材の育成を図ることが必要。
○2010年までに、主要農林水産物の品種や生産地を判別する技術、遺伝子組換え作物の高精度・迅速な検知技術を開発する。【農林水産省】	(19の内数)	■ ■ ■	現在開発中の品目について、実用に足る成果とするためには、室間共同試験等による妥当性確認を行い、室間再現性を高める必要がある。
◇2015年頃までに、科学をベースにした透明性・信頼性の高い、食料・食品の安全性に関するリスク評価手法を確立する【食品安全委員会、文部科学省、厚生労働省、農林水産省】	47(及び5の内数)	■ ■ ■	検出できるかび毒や微生物の種類を拡大する。
○◇2010年までに、環境保全に貢献するスーパー樹木を開発する【文部科学省】	48	■ ■ ■	遺伝子組み換え樹木育種のためのほ場の確保が必要
○2010年までに、花粉症等の免疫・アレルギー疾患に関して、治療法につながる新規技術、患者自己管理手法や重症化・難治化予防のための早期診断法等を確立する【文部科学省、厚生労働省、農林水産省】	(119の内数)	■ ■ ■	今後、この細胞の機能を抗体治療などで人為的に抑制することで、気道過敏症の増悪を抑えることができ、社会的要請の高いアレルギー性ぜんそくの克服に向け抗アレルギー・炎症性疾患薬の新しい創薬ターゲットとして実証実験を行う。また、スギ花粉症緩和剤については、医薬品として臨床試験等が必要になるため、製薬企業との連携が必要。
○2010年までに、脳の重要な認知機能とその臨界期、情動、意志決定、コミュニケーション、社会の中での人間の振る舞い、老化の基本原則を明らかにする【文部科学省】	17	■ ■ ■	脳科学研究戦略推進プログラム内で目標達成に向けた事業を推進する。
◇2015年頃までに、脳や心の病の克服をめざし、脳の認知機能や発達機構、情動の発達機能を解明する【文部科学省】	17	■ ■ ■	脳科学研究戦略推進プログラム内で目標達成に向けた事業を推進する。
20○◇2010年までに、情動や社会性の健全な発達機能の解明を行う【文部科学省】	17	■ ■ ■	脳科学研究戦略推進プログラム内で目標達成に向けた事業を推進する。
○2010年までに、現在の技術水準では解明が極めて困難な難解析タンパク質を生産・解析、制御する技術の向上や相互作用技術を確立し、これまで不可能であったタンパク質の構造・機能解析を行う【文部科学省】	119	■ ■ ■	タンパク質の構造・機能解析の技術開発と個別のタンパク質の構造・機能解析を実施し、引き続き要素技術開発を進める。また、開発した要素技術の有用性の検証と、個別のタンパク質への適用をスピーディーに行う。
○2010年までに、タンパク質の構造・機能情報を効率的・効果的に取得することを実現する、現在の技術水準では解明が極めて困難な難解析タンパク質を生産・解析、制御する技術の向上や相互作用技術を確立する【文部科学省、経済産業省】	119	■ ■ ■	タンパク質の構造・機能解析の技術開発と個別のタンパク質の構造・機能解析を実施し、引き続き要素技術開発を進める。また、開発した要素技術の有用性の検証と、個別のタンパク質への適用をスピーディーに行う。
◇2015年頃までに、世界最高性能の高難度タンパク質などを解析するシステムを開発する【文部科学省】	119	■ ■ ■	タンパク質の構造・機能解析の技術開発と個別のタンパク質の構造・機能解析を実施し、引き続き要素技術開発を進める。また、開発した要素技術の有用性の検証と、個別のタンパク質への適用をスピーディーに行う。

○◇2010年までに、情報科学との融合により、多様な生物情報から生物現象の原理や法則を発見し、体系化する【文部科学省】	14	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
○◇2010年までに、非侵襲計測法により得られた脳活動情報により、多様な装置を操作する技術を開発する【文部科学省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
○◇2010年までに、脳型情報処理技術の開発を実現する【文部科学省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
○◇2010年までに、「考えることで動かせる」究極のヒューマンインターフェイス技術の開発を実現する【文部科学省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
○2010年までに、非侵襲計測法により得られた脳活動情報により、多様な装置を操作する技術を開発する【文部科学省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
○2010年までに、老化・疾患等により低下した身体機能を補助・代替に資する医療技術、医療機器・福祉機器の要素技術を確立する【文部科学省、厚生労働省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
◇2015年頃までに、幹細胞利用技術の世界に先駆けた確立や、コンピュータを用いた生体機能の改善の実現など、老化・疾患等により低下した身体機能を補助・代替に資する医療技術、医療機器・福祉機器を開発する【文部科学省、厚生労働省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
○2010年までに、花粉症などの免疫・アレルギー疾患に対する知見を蓄積し、ワクチン等の新たな治療・診断法を確立する【文部科学省、厚生労働省】	(103の内数)	■ ■ ■	今後、医薬品や医薬部外品の製造管理と品質管理の基準を満たすワクチンの製造(GMPタンパク質の製造)を行い、毒性試験などのTR非臨床研究を終了させる。そして理研と7大学、相模原病院などで構成するアレルギー臨床ネットワークを介して、患者を対象としたTR臨床研究を進める、新たな治療・診断法を確立する。
○2010年までに、網羅的な植物代謝物解析基盤(メタボロームプラットフォーム)を整備するとともに、植物の代謝、形態形成、環境応答など特有な制御・応答システムについて新規の因子や遺伝子を発見し、生産力向上に利用する【文部科学省】	48	■ ■ ■	体系的な代謝物質と遺伝子探索のための設備整備が必要
○2010年までに、農林水産業の生産性の向上等のために、農林水産業に係る動植物・微生物の生命現象の生理・生化学的解明、環境ストレスへの応答機構等を解明する。【農林水産省】	40	■ ■ ■	環境ストレスによる障害の生化学的原因の究明が必要。
◇2015年頃までに、イネ等の作物や植物の生長、形態形成、環境応答など特有な制御・応答システムを解明し、有用な遺伝子や代謝産物を同定する。【文部科学省、農林水産省】	88	■ ■ ■	遺伝子組換え植物栽培のために、ほ場の整備が必要。
○2010年までに、収集した遺伝資源から新たな有用遺伝子を単離し、機能を解明する。【文部科学省、農林水産省】	88	■ ■ ■	得られた成果を実用品種に昇化することが必要。
◇2015年頃までに、複数の有用な形質を短期間で導入するゲノム育種技術を開発する。【文部科学省、農林水産省】	40	■ ■ ■	世代交代を加速できるほ場の確保。
○2010年までに、ロボットやITを活用して、低コスト化技術、省力化技術、多収化技術等農林水産物生産を向上させる技術を開発するとともに、これらを組み合わせて生産現場で活用できる技術体系を構築する。【農林水産省】	12(及び4の内数)	■ ■ ■ ■ ■	ロボットのヒューマンインターフェイスの改善するとともに、開発した機械の低コスト化と実際の生産現場への普及に努める必要がある。
○2010年までに、消費者や実需者ニーズの高い安全で高品質な農林水産物・食品を生産・供給するための技術を開発し、実用化する。【農林水産省】	43	■ ■ ■	戻し交雑等による品種固定を行なうとともに、収穫機等については現地実証等により機械の改良を行なう必要がある。また、確実に普及が見込まれる研究成果を開発するため、農作物の品種に対する実需者、消費者のニーズを的確にとらえるつつ事業を進める必要がある。
◇2015年頃までに、国内に高品質な食料・食品を安定生産・供給できる技術を開発するとともに、開発途上国での開発に適した組換え植物を作出する技術を開発する【農林水産省】	14	■ ■ ■	品種については、戻し交雑等を行い、品種固定を行う必要がある。また、収穫機等については、現地実証等により機械の改良を行う必要がある。更に、消費者ニーズの把握については、本プロジェクト研究で行った事例を基に新たな品種を用いた新商品の開発等を行うモデルケースを作成する必要がある。
○2010年までに、ヒト試験等の検証に基づき、機能性成分を高含有する食品素材を開発する。【農林水産省】	(68の内数)	■ ■ ■	他の成分についても、作用機序の解明を推進。
○2010年までに、ニュートリゲノミクスに基づく食料・食品の新しい健康機能性評価技術(ツール、情報データベースなど)を開発するなど、遺伝子情報を活用して、栄養成分が生体に与える影響を科学的に評価する手法を確立する。【文部科学省、農林水産省】	(19の内数)	■ ■ ■	ニュートリゲノミクスを用いた栄養成分が生体に与える影響の科学的評価の結果をデータベースとして構築。
○2010年までに、健康機能が科学的に裏付けられた、消費者ニーズ(疲労、ストレス、アレルギー等)が高い食料・食品を開発するための技術体系を確立する。【農林水産省】	(19の内数)	■ ■ ■	ヒトの体内での作用機序を解明し、食品成分の与える影響を検証。

国際競争力を向上させる安全な食料の生産・供給科学技術	食料・食品の国際競争力を向上させるため、安全で高品質な食料・食品を低コストで安定的に生産・供給する技術	◇2015年頃までに、医療分野とも連携し、科学的評価に基づいた機能性食料・食品の生産に必要な技術を確立する。【文部科学省、農林水産省】	48(及び19の内数)	■ ■ ■	医療分野との連携を一層強化し、ヒトへの影響をさらに確認する。
		○2010年までに、発がん性物質の革新的リスク評価手法、食品由来感染症等の定量的リスク評価手法等を開発する。【食品安全委員会】	(10の内数)	■ ■ ■	新たな有害物質(発がん物質、食品由来感染症等)への対応。
		○◇2010年までに、と畜場等におけるBSE検査用高感度・迅速検査法、食料・食品中に存在する食中毒菌等の迅速一斉検査法等を実用化する。【厚生労働省、農林水産省】	7(及び47の内数)	■ ■ ■	引き続き、BSE及び食中毒菌の検査手法の高度化を進めるとともに、開発した検査手法の精度評価手法の検討を進めていく。また、異常プリオン蛋白質を認識するプローブを開発する。
		○◇2010年までに、食品等の安全性を科学的に確保するため、遺伝子組換え食品の意図せざる新規代謝物質等の発現等を検証する手法を確立する。【文部科学省、厚生労働省】	48(及び47の内数)	■ ■ ■	最新の知見を収集し、意図しないGM食品などの検知技術を含めたデータベースのアップデートを進めていく。
		○◇2010年までに、添加物450品目について安全性に関する科学的知見を整備する。【厚生労働省】	(47の内数)	■ ■ ■	引き続き、安全性の見直しを終了していない品目について、安全性試験の実施を含む安全性情報の収集・検討を進める。
		○◇2010年までに、食品の安全に関するリスクコミュニケーション手法を確立する。【食品安全委員会、厚生労働省】	(57の内数)	■ ■ ■	引き続き、効果的かつ効率的なリスクコミュニケーションを推進する。
		◇2015年頃までに、新たに実用化が見込まれる遺伝子組換え作物の環境への影響を評価する手法を開発する。【農林水産省】	40	■ ■ ■	環境ストレス耐性植物の環境適応性を明らかにするための新たな戦略が必要。
		◇2015年頃までに、科学をベースにした透明性・信頼性の高い、食料・食品の安全性に関するリスク評価手法を確立する。【食品安全委員会、文部科学省、厚生労働省、農林水産省】	48(及び57の内数)	■ ■ ■	世界の最新の知見に対応した機敏な情報収集メカニズムが必要である。また、検出できるかび毒や微生物の種類を拡大する。
		○◇2010年までに、環境保全に貢献するスーパー樹木を開発する。【文部科学省】	48	■ ■ ■	遺伝子組み換え樹木育種のためのほ場の確保が必要
		○2010年までに、病害虫抵抗性等を付与させた組換え生物や炭酸ガスや窒素を効率的に固定する組換え生物を開発する。【農林水産省】	40	■ ■ ■	遺伝子組換え植物栽培のためのほ場の整備。
		○◇2010年までに、ゲノム育種による乾燥地域等の不良環境で生産できる農作物を開発する。【農林水産省】	40	■ ■ ■	遺伝子組換え植物栽培のためのほ場の整備。
		○2010年までに、生産性や品質の高い農林水産物・食品や医療用素材等の実用化に向けた技術を開発する。【農林水産省】	40	■ ■ ■	世代交代を加速できるほ場の確保。
		◇2015年頃までに、遺伝子組換え技術等を活用して、生産性や品質の高い農林水産物・食品や医療用素材等を開発する。【農林水産省】	40	■ ■ ■	遺伝子組換え植物栽培のためのほ場の整備。
		○2010年までに、生活習慣病の予防及び健康維持に資する栄養学的研究の強化、ニュートリゲノミクスの推進などにより、機能性食料・食品の生産に必要な技術を確立する。【文部科学省、農林水産省】	(19の内数)	■ ■ ■	ニュートリゲノミクスを用いた栄養成分が生体に与える影響の科学的評価の結果をデータベースとして構築。
		◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化等による創薬プロセスの高度化を実現するとともに、個人の特性を踏まえた、生活習慣病等の予防・早期診断・先端的な治療技術や、難病の早期診断・先端的治療技術を可能にする。【文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省】	(19の内数)	■ ■ ■	評価結果の精査を行い、適性情報提供により、生活習慣病の予防等を推進。
		○2010年までに、BSEや高病原性鳥インフルエンザ等主要な人獣共通感染症を含む家畜感染症の簡易・迅速診断技術や予防技術を開発する。【農林水産省】	7	■ ■ ■ ■ ■	・鳥インフルエンザウイルスの持つNA亜型及び病原性を判定できる信頼性の高いPCR法の開発。 ・PMCA法をBSEプリオンに応用した診断法の開発。
		◇2015年頃までに、BSEや高病原性鳥インフルエンザ等主要な人獣共通感染症を含む家畜感染症の簡易・迅速診断技術や予防技術を開発する。【農林水産省】	7	■ ■ ■ ■ ■	鳥インフルエンザウイルスの持つ15種類のHA亜型を判定できる信頼性の高いPCR法を開発。 ・PMCA法を使った生体診断法の開発。
○2010年までに、土壌微生物の多様性を解析する手法を開発する。【農林水産省】	4	■ ■ ■	主要な土壌において、作物生産性や作物病害発生との関連を示す指標及び評価手法を開発する。		
◇2020年頃までに、環境中の生物集団から有用遺伝子を探査・収集し、工業原料や医薬品等の生産に活用する技術を開発する。【文部科学省、農林水産省、経済産業省】	4(及び32の内数)	■ ■ ■	得られた成果を実用化に結びつけるため、周辺の環境整備が必要。		
○2010年までに、網羅的な植物代謝物解析基盤(メタボロームプラットフォーム)を整備するとともに、植物の代謝、形態形成、環境応答など特有な制御・応答システムについて新規の因子や遺伝子を発見し、生産力向上に利用する。【文部科学省】	48	■ ■ ■	体系的な代謝物質と遺伝子探索のための設備整備が必要		

生物機能活用による物質生産・環境改善科学技術	微生物や動植物の機構の解明等を通じ、生物機能の活用による産業や医療に有用な物質生産や環境保全・浄化に資する技術	○2010年までに、農林水産業の生産性の向上等のために、農林水産業に係る動植物・微生物の生命現象の生理・生化学的解明、環境ストレスへの応答機構等を解明する。【農林水産省】	40	■ ■ ■	環境ストレスによる障害の生化学的原因の究明が必要。
		◇2015年頃までに、イネ等の作物や植物の生長、形態形成、環境応答など特異的な制御・応答システムを解明し、有用な遺伝子や代謝産物を同定する。【文部科学省、農林水産省】	88	■ ■ ■	遺伝子組換え植物栽培のために、ほ場の整備が必要。
		○2010年までに、収集した遺伝資源から新たな有用遺伝子を単離し、機能を解明する。【文部科学省、農林水産省】	88	■ ■ ■	得られた成果を実用品種に昇化することが必要。
		○◇2010年までに、動物(昆虫)機能を利用した、医療用モデル動物、有用物質生産技術等を開発する。【農林水産省】	4(及び32の内数)	■ ■ ■	得られた成果を実用化に結びつけるため、周辺環境整備が必要。
		◇2015年頃までに、医療分野とも連携し、科学的評価に基づいた機能性食料・食品の生産に必要な技術を確立する【文部科学省、農林水産省】	48	■ ■ ■	遺伝子組み換え作物のメタボローム解析に基づく安全性評価技術の確立
		○◇2010年までに、食品等の安全性を科学的に確保するため、遺伝子組換え食品の意図せざる新規代謝物質等の発現等を検証する手法を確立する【文部科学省、厚生労働省】	48	■ ■ ■	遺伝子組み換え作物のメタボローム解析に基づく安全性評価技術の確立
		◇2015年頃までに、新たに実用化が見込まれる遺伝子組換え作物の環境への影響を評価する手法を開発する。【農林水産省】	40	■ ■ ■	環境ストレス耐性植物の環境適応性を明らかにするための新たな戦略が必要。
		◇2015年頃までに、科学をベースにした透明性・信頼性の高い、食料・食品の安全性に関するリスク評価手法を確立する【食品安全委員会、文部科学省、厚生労働省、農林水産省】	48	■ ■ ■	遺伝子組み換え作物のメタボローム解析に基づく安全性評価技術の確立
		○◇2010年までに、微生物・動植物を用いた有用物質の生産を可能とするための培養・遺伝子組換え技術を開発する。【農林水産省】	4(及び32の内数)	■ ■ ■	得られた成果を実用化に結びつけるため、周辺環境整備が必要。
		○◇2010年までに、環境保全に貢献するスーパー樹木を開発する【文部科学省】	48	■ ■ ■	遺伝子組み換え樹木育種のほ場の確保が必要
		○◇2010年までに、生物機能等を利用した持続的な防除技術の開発、適正施肥技術の開発、環境中の有害化学物質の農林水産物への吸収抑制技術及び、汚染土壌浄化技術(バイオレメディエーション)を開発する。【農林水産省】	5	■ ■ ■ ■ ■	引き続き、減肥料による適性施肥技術の開発や環境負荷の低い日本型有機農業技術体系の開発について研究を推進する。
				○2010年までに、個人の特性に応じた治療や創薬に資するよう、我が国における主要疾患の関連遺伝子の同定等を行い、個人の特性に応じた予防・治療法や創薬へ繋げるための手法を開発する。【文部科学省】	101
○2010年までに、タンパク質相互作用・ネットワーク解析技術や疾患など生物現象を制御する化合物探索技術、膜タンパク質構造解析技術、疾患モデル細胞の構築技術など創薬効率化のための技術基盤を確立し、創薬ターゲット候補となる新規の重要なタンパク質相互作用情報等の情報を蓄積する。【経済産業省】	(127の内数)			■ ■ ■	タンパク質の立体構造に基づいた、効果的な創薬基盤を確立するため、電子顕微鏡や核磁気共鳴法を用いたタンパク質の立体構造解析技術及びin silicoでのタンパク質と化合物の結合予測モデルの構築等、引き続き要素技術の開発を進める。
◇2010年代までに、ゲノム、RNA、タンパク質、糖鎖、代謝産物等の構造、機能と、それらのネットワークを解明することを目指し、解析に必要な基盤技術を確立し、これらの分子の構造・機能を解明する【文部科学省、経済産業省】	(127の内数)			■ ■ ■	電子顕微鏡や核磁気共鳴法を用いたタンパク質の立体構造解析技術及びin silicoでのタンパク質と化合物の結合予測モデルの構築を引き続き実施する。
◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化等による創薬プロセスの高度化を実現するとともに、個人の特性を踏まえた、生活習慣病等の予防・早期診断・先端的な治療技術や、難病の早期診断・先端的治療技術を可能にする。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】	158(及び127の内数)			■ ■ ■ ■ ■	個人の特性を踏まえた予防・治療を提供することを可能とする医療の実現に向け、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する。そのため、引き続き、大学や業と連携して共同研究や人材育成を進める。
○2010年までに、脳の重要な認知機能とその臨界期、情動、意志決定、コミュニケーション、社会の中での人間の振る舞い、老化の基本原理解を明らかにする【文部科学省】	296			■ ■ ■	fMRIなどの最先端装置を駆使した人間レベルに関する実験例証をいっそう増やし、動物実験の結果と関連付けることによって、よりいっそう複雑な精神の構造を明らかにする。
○2010年までに、免疫の高次統御システムについてリンパ球機能制御や免疫応答制御に関する新たな知見を得て、ワクチン等の新たな治療・診断法を確立する【文部科学省】	(103の内数)			■ ■ ■	「ミクロクラスター」によるT細胞制御のメカニズムは、喘息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、リウマチなどの自己免疫疾患への新しい治療法、移植医療に対する免疫抑制剤、またがん治療に対する免疫賦活剤の新しい開発法への可能性を示しており、安全で効果的な免疫治療法を確立する。
◇2020年頃までに、脳の認知機能や発達機構、情動と社会性の発達機能や、免疫の高次統御システムを解明する【文部科学省】	17			■ ■ ■	脳科学研究戦略推進プログラム内で目標達成に向けた事業を推進する。

◇2015年頃までに、免疫の高次統御システムを解明し、免疫・アレルギー疾患の克服のための新規免疫療法等を開発する【文部科学省】	(103の内数)	■ ■ ■	白血病などの血液系腫瘍へのがん免疫療法への応用を図る。
○◇2010年までに、シグナル伝達や細胞間相互作用などからの正常発生システムにおける細胞分化、組織・器官形成、疾患の発症システム等の解明を通じて、再生医療に向けた幹細胞利用技術等の基盤技術を確立する【文部科学省】	142	■ ■ ■	生命体の統合的理解に向け、従来の細胞・発生生物学の手法に数理科学的発想を取り入れた研究開発を平成21年度より開始し、一層活発な研究活動を促進する。また、得られる成果の再生医療への応用を見据え、臨床研究機関との連携も常に模索する。
○2010年までに、脳型情報処理技術を開発する【文部科学省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
○2010年までに、脳科学の重要な研究成果をデータベース化し、分子から行動までの各層のデータの統合を実現する【文部科学省】	17	■ ■ ■	脳科学研究戦略推進プログラム内で目標達成に向けた事業を推進する。
◇2015年頃までに、脳の情報をシステムのレベルで取り出し、実時間でコーディングし、情報通信機器と相互作用させる脳・機械インターフェイスを開発する【文部科学省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
◇2015年頃までに、脳や心の病の克服に道筋をつけることを目指し、脳の認知機能や発達機構、情動の発達機能を解明する【文部科学省】	17	■ ■ ■	脳科学研究戦略推進プログラム内で目標達成に向けた事業を推進する。
◇2015年頃までに、脳の働きをロボットに反映させるシステムを確立する【文部科学省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
◇2030年代までに、脳の情報処理システムに基づいた脳型コンピュータを開発する【文部科学省】	279	■ ■ ■	人間の思考に係る各種の神経回路モデルを総合的なモデルとして計算論的に提示し、脳型コンピュータ開発のための知見を得る。
○2010年までに、精神疾患、神経・筋疾患、感覚器障害について、細胞治療、創薬等を活用した治療法の開発に資する、病態の詳細や、原因遺伝子といった疾患の原理を理解する。【文部科学省、厚生労働省】	(75の内数)	■ ■ ■	具体的な臨床応用に向けた研究のスケジューリング。
◇2015年までに、精神疾患、神経・筋疾患、感覚器疾患について、細胞治療、遺伝子治療、創薬等を活用した治療法について研究を行い、臨床応用が検討される段階まで到達する【文部科学省、厚生労働省】	(75の内数)	■ ■ ■	具体的な臨床応用に向けた研究のスケジューリング。
○2010年までに、個人の特性に応じた治療や創薬に資するよう、我が国における主要疾患の関連遺伝子の同定等を行うとともに、予防・治療法や創薬につなげるための手法を開発する。【文部科学省、厚生労働省】	204	■ ■ ■	引き続き、画期的な予防・治療法開発に資するよう、病態解明を推進する。また、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する。
○2010年までに、イメージング技術により遺伝子・細胞レベルでの薬物の動態把握し、分子機能を解明して、薬剤候補物質のスクリーニングを大幅に高速化する。【文部科学省】	57	■ ■ ■ ■ ■	引き続き日本をリードする研究拠点としての強化を図るとともに、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築する必要がある。また、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。
○2010年までに、タンパク質相互作用・ネットワーク解析技術や疾患など生物現象を制御する化合物探索技術、膜タンパク質構造解析技術、疾患モデル細胞の構築技術など創薬効率化のための技術基盤を確立し、創薬ターゲット候補となる新規の重要なタンパク質相互作用情報等の情報を蓄積する。【経済産業省】	(127の内数)	■ ■ ■	タンパク質の立体構造に基づいた、効果的な創薬基盤を確立するため、電子顕微鏡や核磁気共鳴法を用いたタンパク質の立体構造解析技術及びin silicoでのタンパク質と化合物の結合予測モデルの構築等、引き続き要素技術の開発を進める。
○2010年までに、産業上有用と考えられるタンパク質やその複合体を特異的に認識する抗体を創製するための基盤技術及び製造コスト低減に向けた抗体の分離・精製等を高効率に行う技術を開発する【経済産業省】	34	■ ■ ■	タンパク質の抗原化のための技術開発を引き続き実施するとともに、抗原化の困難な膜タンパク質の抗原化を行い特異的抗体を作製する。さらに、抗体製造のコスト低減及び効率化のための分離・精製技術の開発を行う。
◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化等による創薬プロセスの高度化を実現するとともに、個人の特性を踏まえた、生活習慣病等の予防・早期診断・先端的な治療技術や、難病の早期診断・先端的治療技術を可能にする。【文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省】	216(及び127の内数)	■ ■ ■	個人の特性を踏まえた医療を実現するため、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制の構築や、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等の活用等によって病態解明や疾患遺伝子の研究を推進する。
○2010年までに、がん、糖尿病などの生活習慣病や難病の治療・診断法を開発するための基盤を蓄積し、臨床研究につなげる。特に、生活習慣病に関しては、遺伝要因と環境要因に応じた疾患の原因を探求することにより、新たな予防・治療法へつなげる。【文部科学省、厚生労働省】	159	■ ■ ■	個人個人に最適な予防・治療を提供することを可能とする医療の実現に向け、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する。また、引き続き、画期的な予防・治療法開発に資するよう、臨床研究を推進する。
○2010年までに、現在治療が困難ながんについて重粒子線による臨床試験を行い、薬剤併用法等、がんをより効果的に治療するためのプロトコルを開発する。【文部科学省】	168	■ ■ ■ ■ ■	重粒子線がん治療研究の適応拡大を図ると同時に、疾患別・部位別に照射手法の最適化を図る研究が必要である。
○2010年までに、早期がん、難治性がん等の疾患の本態や病態変化を解明し、疾患の早期発見と悪性度の早期診断を実現する技術を開発する。【文部科学省、厚生労働省】	87	■ ■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築し、大学や企業等と連携して、研究開発を実施する必要がある。

○2010年までに、花粉症等の免疫・アレルギー疾患に関して、治療法につながる新規技術、患者自己管理手法や重症化・難治化予防のための早期診断法等を確立する。【文部科学省、厚生労働省、農林水産省】	40(及び103の内数)	■ ■ ■	気道過敏症発症に中心的な役割をする細胞の機能を抗体治療などで人為的に抑制することで、気道過敏症の増悪を抑えることができ、社会的要請の高いアレルギー性ぜんそくの克服に向け抗アレルギー・炎症性疾患薬の新しい創薬ターゲットとして実証実験を行う。また、自己管理手法が充実できるよう各種ガイドブック等の作成・改定を推進するとともに、画期的な予防・治療法開発につながる研究を推進する。
○2010年までに、早期リウマチの診断・治療方法を確立する。【厚生労働省】	40	■ ■ ■	引き続き、画期的な診断・治療法開発につながる研究を推進する。
○2010年までに、がんに関する基礎研究を臨床研究に橋渡しするための体制を整備し、新たな治療法等を確立し、実用化を可能とする。【文部科学省、厚生労働省】	22	■ ■ ■ ■ ■	これまでの経験等を踏まえ、がんだけではなく医療としての実用化が見込まれる有望な基礎研究の成果を積極的に予防・診断・治療へ応用する橋渡し研究を推進し、医療への普及・定着や企業へのライセンスアウトを目指すため、「橋渡し研究支援推進プログラム」における研究拠点を利用した研究を支援する研究費として拡充を検討する必要がある。
○2010年までに、タンパク質相互作用・ネットワーク解析技術や疾患など生物現象を制御する化合物探索技術、膜タンパク質構造解析技術、疾患モデル細胞の構築技術など創薬効率化のための技術基盤を確立し、創薬ターゲット候補となる新規の重要なタンパク質相互作用情報等の情報を蓄積する【経済産業省】	(127の内数)	■ ■ ■	タンパク質の立体構造に基づいた、効果的な創薬基盤を確立するため、電子顕微鏡や核磁気共鳴法を用いたタンパク質の立体構造解析技術及びin silicoでのタンパク質と化合物の結合予測モデルの構築等、引き続き要素技術の開発を進める。
○2010年までに、産業上有用と考えられるタンパク質やその複合体を特異的に認識する抗体を創製するための基盤技術及び製造コスト低減に向けた抗体の分離・精製等を高効率に行う技術を開発する。【経済産業省】	34	■ ■ ■	タンパク質の抗原化のための技術開発を引き続き実施するとともに、抗原化の困難な膜タンパク質の抗原化を行い特異的抗体を作製する。さらに、抗体製造のコスト低減及び効率化のための分離・精製技術の開発を行う。
○2010年までに、腫瘍(特に早期がん、難治性がん等)、腎疾患、循環器系疾患等の病態変化の早期発見と悪性度の診断をより早期に行うため、細胞の機能変化を高感度、高精度、高速に検出・診断できる分子イメージング機器を開発する。【文部科学省、経済産業省】	87	■ ■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。
◇2015年頃までに、QOLの高い治療法の確立を目指して、アスベストによる悪性中皮腫の簡便かつ低侵襲な早期診断法を確立する。【文部科学省】	87	■ ■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。
◇2015年頃までに、重粒子線による、膵臓がん等の超難治性がんの治療法を確立する。【文部科学省】	168	■ ■ ■ ■ ■	重粒子線がん治療研究の適応拡大を図ると同時に、疾患別・部位別に照射手法の最適化を図る研究が必要である。
◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化、より有用な薬剤候補物質の絞り込みの精度の向上等の創薬プロセスの高度化を実現し、個人の特性を踏まえた、生活習慣病や難病の予防・早期診断・先端医療技術を実現する。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】	57(及び127の内数)	■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。
◇2015年頃までに、画像診断機器の高度化等による検査の高速化や、生体機能・代謝の可視化による疾患の早期発見技術を実用化する。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】	36	■ ■ ■	引き続き日本をリードする研究拠点としての強化を図るとともに、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築する必要がある。
○2010年までに、脳の重要な認知機能とその臨界期、情動、意志決定、コミュニケーション、社会の中での人間の振る舞い、老化の基本原則を明らかにする。【文部科学省】	17	■ ■ ■	脳科学研究戦略推進プログラム内で目標達成に向けた事業を推進する。
○2010年までに、神経工学・再生医学を適用した神経疾患・感覚器障害の治療法の確立を目指した知見を集積する。【文部科学省、厚生労働省】	40(及び75の内数)	■ ■ ■	目的とする細胞・組織にiPS細胞を分化誘導する技術、腫瘍化の危険性が低いiPS細胞の樹立、安全かつ効率的に目的とする細胞・組織を作成する技術及び品質管理手法の確立、疾患及び対象臓器ごとの科学的根拠の明確化などによる目的細胞の安全性・有効性の検証などが必要である。また、具体的な臨床応用に向けた研究のスケジューリングが必要である。
○◇2010年までに、多様な難病の病態に関して情報収集し、適切な治療法が選択出来るような知的基盤を確立する。【厚生労働省】	74	■ ■ ■	引き続き、適切な治療法が選択できるよう診断基準や治療指針の作成・改定を推進する。
○◇2010年までに、地域における自殺率を減少させる介入方法及び自殺未遂者の再発率を減少させる介入方法を開発する。【厚生労働省】	(60の内数)	■ ■ ■	具体的な臨床応用に向けた研究のスケジューリング。
◇2015年頃までに、神経疾患、感覚器障害等について、細胞治療等による機能の補完を確立する。【文部科学省】	40	■ ■ ■	引き続き再生医療の実現に向けて、腫瘍化等の安全性に関する研究や、目的とする細胞・組織へ効率よく分化させる技術開発、また品質管理に必要な評価技術の開発等を推進していく。
◇2015年頃までに、脳や心の病の克服をめざし、脳の認知機能や発達機構、情動の発達機能を解明する。【文部科学省】	17	■ ■ ■	脳科学研究戦略推進プログラム内で目標達成に向けた事業を推進する。
○◇2010年までに、情動や社会性の健全な発達機能の解明を行う。【文部科学省】	17	■ ■ ■	脳科学研究戦略推進プログラム内で目標達成に向けた事業を推進する。

臨床研究・臨床への橋渡し研究

生活習慣病、免疫・アレルギー疾患、精神疾患等に対応した、疾患診断法、創薬や再生医療、個人の特性に応じた医療等の新規医療技術の研究開発などについて、国民へ成果を還元する技術

○2010年までに、小児への適応が未確立な医薬品に対する臨床研究を推進し、小児に対するEBMの実現例を出す。【厚生労働省】	15	■ ■ ■	成果は着実に得られている。現在、事業の組み替えにより、当該事業は小児疾患に限定していないが、引き続き小児に対するEBMの実現例を支援する。
○2010年までに、精神疾患、神経・筋疾患、感覚器障害について、細胞治療、創薬等を活用した治療法の開発に資する、病態の詳細や、原因遺伝子といった疾患の原理を理解する。【厚生労働省】	(60の内数)	■ ■ ■	具体的な臨床応用に向けた研究のスケジューリング。
◇2015年までに、子どもの難治性疾患の原因の解明、診断法確立と標準化を実現するとともに、細胞治療、遺伝子治療、創薬の基盤技術を確立し、臨床応用が検討される段階まで到達する。【厚生労働省】	(19の内数)	■ ■ ■	具体的な臨床応用に向けた研究のスケジューリング。
◇2015年までに、不妊・周産期障害の原因解明のための周産期研究体制を整備し、生殖補助医療、創薬の基盤技術を臨床応用が検討される段階まで到達させる。【厚生労働省】	(19の内数)	■ ■ ■	具体的な臨床応用に向けた研究のスケジューリング。
◇2015年までに、精神疾患、神経・筋疾患、感覚器疾患について、細胞治療、遺伝子治療、創薬等を活用した治療法について研究を行い、臨床応用が検討される段階まで到達する。【厚生労働省】	(75の内数)	■ ■ ■	具体的な臨床応用に向けた研究のスケジューリング。
○2010年までに、再生医療の実現に向け、組織・器官の構築技術及び細胞治療技術の確立に必要な基盤を整備し、それを活用した研究を推進することにより、幹細胞利用技術を世界に先駆けて確立する。【文部科学省】	40	■ ■ ■ ■	引き続き再生医療の実現に向けて、腫瘍化等の安全性に関する研究や、目的とする細胞・組織へ効率よく分化させる技術開発、また品質管理に必要な評価技術の開発等を推進していく。
○◇2010年までに、ゲノム創薬、個人の遺伝情報に応じた医療の実現に資するための我が国における主要な疾患の関連遺伝子の同定及びその機能の解明、遺伝子治療製剤の安全性・有効性に関する技術の確立に向けた基盤技術を確立する。【文部科学省、厚生労働省】	85	■ ■ ■	個人個人に最適な予防・治療を提供することを可能とする医療の実現に向け、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する。
○2010年までに、再生医療技術の安全性・有効性等の確保が可能となる品質管理手法を確立する。【厚生労働省】	(26の内数)	■ ■ ■ ■	引き続き、再生医療技術の安全性・有効性等の確保が可能となるよう研究開発を行う。
○2010年までに、皮膚や骨等の組織の再生を可能にする再生医療技術、患者自身の細胞の採取・培養から組織形成・治療までの評価プロセス及び評価基準の確立や再生医療の臨床応用を可能とするための三次元・多層化・組織化技術を確立する。【文部科学省、経済産業省】	63	■ ■ ■	目的とする細胞・組織にiPS細胞を分化誘導する技術や、分化誘導して得た目的細胞の特性、品質や純度、安全性を確認する技術の開発、品質管理の基盤となる標準化の技術開発が必要。培養した軟骨の構造について評価する技術をどこかの病院や施設でも使えるようにするために、複数の施設での撮像実験を行う。また、角膜についての評価技術を簡易に使えるようにするために、キット化(簡素化した評価セット)に向けた研究開発を行う。
◇2015年頃までに、心筋や血管等の再生を可能にする再生医療技術を確立し、2025年頃までに、肝臓等の臓器の機能の再生を可能にする。【文部科学省、経済産業省】	63	■ ■ ■	腫瘍化の危険性がないiPS細胞の樹立や、安全かつ効率的なiPS細胞や目的とする細胞・組織の作製技術及び品質管理手法の確立、目的細胞の安全性・有効性の検証のため、疾患及び対象臓器ごとの科学的根拠の明確化が必要。また、開発したバイオ心筋の有効性評価において、「不整脈の有無」にかかる評価をミニマタ等動物実験により実施する。また、三次元複合臓器構造体について、国の定めた基準(GLP:優良試験所基準)に準拠した施設にて安全性と有効性の評価試験を行う。
○2010年までに、非侵襲性診断・治療技術・機器のトータルの感度を10倍超とするなど高度化を実現する。【文部科学省】	87	■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。
○2010年までに、様々な特性を有する分子プローブを開発し、共通基盤的ライブラリを構築する。【文部科学省】	109	■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。また、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。
○2010年までに、腫瘍の発見と悪性度の診断をより早期に行うため、細胞の機能変化を高感度、高精度、高速に検出・診断できる分子イメージング機器を開発する。【文部科学省、経済産業省】	87	■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。
◇2015年頃までに、画像診断機器の高度化等による検査の高速化や、生体機能・代謝の可視化による疾患の早期発見技術を確立する。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】	87(及び11の内数)	■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。今後は登録した研究協力施設において、被験者を募り、それらを追跡し、軽度認知障害のAMIロイドイメージング画像とアルツハイマー病発症との関係を明らかにする。さらに、ナノメディシン分野については、実用化に向けた支援が必要である。

○2010年までに、超高速・高感度にタンパク質の相互作用を解析する技術や疾患を制御する化合物の探索・評価技術を開発する。【経済産業省】	(127の内数)	■ ■ ■	ターゲットとなるタンパク質を制御する化合物を予測する技術の開発及び、予測した化合物を改変するための技術開発が必要。さらに、各要素技術、システムを組み合わせ、膨大な天然化合物ライブラリーから新薬候補化合物を探索する実証研究を行う。
◇2015年頃までに、低量で無害、より広範囲な化合物群を作成し、化合物の標識方法や動態解析法の開発など分子イメージング技術等を利用し、創薬の高度化を図り、より有用な薬剤候補物質の絞り込みの精度の向上、個人の特性を踏まえた、生活習慣病や難病の予防・早期診断技術・治療先端医療技術を実現する。【文部科学省、経済産業省】	57	■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。
○2010年までに、タンパク質の構造・機能情報を効率的・効果的に取得することを實現する、現在の技術水準では解明が極めて困難な難解析タンパク質を生産、解析、制御する技術の向上や相互作用技術を確立する。【文部科学省、経済産業省】	(127の内数)	■ ■ ■	ターゲットとなるタンパク質を制御する化合物を予測する技術の開発及び、予測した化合物を改変するための技術開発が必要。さらに、各要素技術、システムを組み合わせ、膨大な天然化合物ライブラリーから新薬候補化合物を探索する実証研究を行う。
○◇2010年までに、非侵襲計測法により得られた脳活動情報により、多様な装置を操作する技術を開発する。【文部科学省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
○◇2010年までに、脳型情報処理技術の開発を實現する。【文部科学省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
○◇2010年までに、「考えることで動かせる」究極のヒューマンインターフェイス技術の開発を實現する。【文部科学省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化、より有用な薬剤候補物質の絞り込みの精度の向上などの創薬プロセスの高度化を實現するとともに、個人の特性を踏まえた、生活習慣病や難病の予防・早期診断・先端医療技術を実現する。【文部科学省、経済産業省】	142	■ ■ ■	個人個人に最適な予防・治療を提供することを可能とする医療の實現に向け、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する。また、イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築し、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。
○2010年までに、分子イメージング技術の高度化により、腫瘍の治療に対する反応性の評価、転移可能性や予後予測等、腫瘍の性状評価手法や精神・神経疾患の診断手法、薬効評価手法を開発する。【文部科学省】	109	■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。また、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。
○◇2010年までに、デバイスやバイオセンサ等、ナノ技術を駆使して、生体構造・組織への適合性を高めた医療機器の開発を進め、臨床応用が検討される段階まで到達する。【厚生労働省】	22	■ ■ ■	事業を改編し、活動領域拡張医療機器開発研究として、引き続き、生体構造・組織への適合性を高めた医療機器の開発に関して必要な支援を行う。
○◇2010年までに、老化・疾患等により低下した身体機能を補助・代替するための医療機器・福祉機器の要素技術を確立する。【厚生労働省】	(7の内数)	■ ■ ■	具体的な臨床応用に向けた研究のスケジューリング。
○2010年までに、腫瘍の発見と悪性度の診断をより早期に行うため、細胞の機能変化を高感度、高精度、高速に検出・診断できる分子イメージング機器など、臨床現場で活用できるレベルでのバイオ診断機器を開発する。【文部科学省、経済産業省】	109	■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。また、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。
○2010年までに、患者自身の細胞の採取・培養から組織形成・治療までの評価プロセス及び評価基準を確立し、再生医療の臨床応用を可能とするための多層化・組織化技術を開発する【経済産業省】	22	■ ■ ■	培養した軟骨の構造について評価する技術をどこの病院や施設でも使えるようにするために、複数の施設での撮像実験を行う。また、角膜についての評価技術を簡易に使えるようにするために、キット化(簡素化した評価セット)に向けた研究開発を行う。また、開発したバイオ心筋の有効性評価において、「不整脈の有無」にかかる評価をミニマタ等大動物実験により実施する。また、三次元複合臓器構造体について、国の定めた基準(GLP:優良試験所基準)に準拠した施設にて安全性と有効性の評価試験を行う。
◇2015年頃までに、画像診断機器の高度化等による検査の高速化、生体機能・代謝の可視化による疾患の早期発見技術を実用化する。【文部科学省、経済産業省】	109	■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。また、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。
◇2015年頃までに、心筋や血管等の再生を可能にする再生医療技術を確認し、2025年頃までに、肝臓等の臓器の機能の再生を可能にする。【文部科学省、経済産業省】	63	■ ■ ■	引き続き再生医療の實現に向けて、腫瘍化等の安全性に関する研究や、目的とする細胞・組織へ効率よく分化させる技術開発、また品質管理に必要な評価技術の開発等を推進していく。また、開発したバイオ心筋の有効性評価において、「不整脈の有無」にかかる評価をミニマタ等大動物実験により実施する。また、三次元複合臓器構造体について、国の定めた基準(GLP:優良試験所基準)に準拠した施設にて安全性と有効性の評価試験を行う。
○◇2010年までに、シックハウス症候群の治療の普及に役立つ優れた手引きを作成する。【厚生労働省】	(5の内数)	■ ■ ■	現在、シックハウス症候群の治療の普及に資するマニュアルを作成し、今後広く活用できるよう公開する予定である。
○◇2010年までに、現時点で明らかになっている乱用物質の毒性・依存性を評価する技術を確認する。【厚生労働省】	(26の内数)	■ ■ ■	引き続き、乱用薬物の毒性・依存性評価のための研究開発を行う。

○◇2010年までに、NBCテロ・災害への対応体制運用の強化や効率化、除染・防護技術の改善、対策資材の開発や備蓄の効率化等、対策の強化や効率化に資する基盤技術やオペレーション手法の開発にかかる研究体制整備を実現する。【厚生労働省】	1	■ ■ ■	研究成果の共有や研究者間の交流を促進し、引き続き多面的に研究を推進する。
○◇2010年までに、地域における健康危機管理体制の評価指針等を確立する。【厚生労働省】	(5の内数)	■ ■ ■	適切な健康危機管理体制の構築が図れるよう、分野横断的な研究を必要とする。
○2010年までに、非侵襲計測法により得られた脳活動情報により、多様な装置を操作する技術を開発する。【文部科学省】	17	■ ■ ■	引き続き、研究を推進する必要がある。
○2010年までに、老化・疾患等により低下した身体機能を補助・代替に資する医療技術、医療機器・福祉機器の要素技術を開発する。【文部科学省、厚生労働省】	39(及び7の内数)	■ ■ ■	引き続き、身体機能の補助・代替に資する各種技術に対して必要な支援を行う。
○2010年までに、視覚・聴覚・平衡覚等の感覚器機能の障害を有する者の社会参加の促進と自立を支援するために革新的な予防・診断・治療方法の開発につながる有用な知見を蓄積する。【厚生労働省】	(14の内数)	■ ■ ■	具体的な臨床応用に向けた研究のスケジューリング。
○2010年までに、効果的な介護予防プログラムの開発や認知症の早期発見・治療技術等の介護予防や介護現場を支えるための技術を開発する。【厚生労働省】	(40の内数)	■ ■ ■ ■	ヒッププロテクターの着用群と対照群について追跡を完了させる。
◇2015年頃までに、幹細胞利用技術の世界に先駆けた確立や、コンピュータを用いた生体機能の改善の実現など、老化・疾患等により低下した身体機能を補助・代替に資する医療技術、医療機器・福祉機器を開発する。【文部科学省、厚生労働省】	39(及び7の内数)	■ ■ ■	引き続き、身体機能の補助・代替に資する各種技術に対して必要な支援を行う。
◇2015年頃までに、現場に普及できる介護予防技術や介護現場を支える技術を開発する。【厚生労働省】	(11の内数)	■ ■ ■	今後、15,500人のコホートの追跡を行う。
○◇2010年までに、多様な難病の病態に関して情報収集し、適切な治療法が選択できるような知的基盤を確立する。【厚生労働省】	74	■ ■ ■	引き続き、適切な治療法が選択できるよう診断基準や治療指針の作成・改定を推進する。
○◇2010年までに、障害者のために治療から福祉にわたる幅広い障害保健福祉サービスの提供手法を開発する。【厚生労働省】	(7の内数)	■ ■ ■	法改正などによる制度改正に対応した適切な研究対象の設定。
○2010年までに、がん、糖尿病などの生活習慣病や難病の治療・診断法を開発するための基盤となる知見を蓄積し、臨床研究に繋げる。基盤の蓄積により、我が国で生み出された基礎研究成果を活用・育成することにより、臨床研究を経て、実用化(創薬等)を目指す。また、我が国で生み出された基礎研究成果からトランスレーショナルリサーチにより、実用化を可能とする。【文部科学省、厚生労働省】	396	■ ■ ■	有用な基礎研究成果を実用化し、画期的な予防・治療開発に資するよう、橋渡し研究拠点の機能を一層拡充・強化するほか、臨床研究を推進する。また、糖尿病戦略研究等において日本における生活習慣病のデータに立脚したエビデンスの蓄積を図ると共に、医療制度改革における糖尿病等の生活習慣病有病者・予備群25%削減の目標に展開し得る研究を推進する。
○2010年までに、花粉症などの免疫・アレルギー疾患に対する知見を蓄積し、ワクチン等の新たな治療・診断法を開発する。【文部科学省、厚生労働省】	40(103の内数)	■ ■ ■	引き続き、画期的な診断・治療法開発につながる研究を推進する。また、今後、医薬品や医薬部外品の製造管理と品質管理の基準を満たすワクチンの製造(GMPタンパク質の製造)を行い、毒性試験などのTR非臨床研究を終了させる。そして理研と7大学、相模原病院などで構成するアレルギー臨床ネットワークを介して、患者を対象としたTR臨床研究を進め、新たな治療・診断法を開発する。
○2010年までに、拠点となる医療機関の臨床研究実施体制を整え、人材育成(臨床研究者、生物統計学者等)を行うことにより、我が国の臨床研究に必要な体制整備を実現する。【文部科学省、厚生労働省】	70	■ ■ ■	各橋渡し研究拠点の機能を一層拡充・強化するなど、基盤整備について必要な支援を行う。
○2010年までに、医師主導試験の試行や、治験啓発活動を通じて治験環境の基盤を確立する。【厚生労働省】	38	■ ■ ■	諸事情により企業が実施しない治験を医師主導で実施したり、また、その基盤の整備を実施しており、引き続き、必要な支援を行う。
◇2015年頃までに、臨床研究を加速するための基盤を整備し、我が国の基礎研究成果から得られた研究成果が、革新的医療技術として速やかに実用化できる体制を確立する。(文部科学省、厚生労働省)	63	■ ■ ■	各橋渡し研究拠点の機能を一層拡充・強化し、引き続き、我が国で生み出されたものの諸事情により実用化されていない有用な基礎研究成果を臨床研究へ橋渡しを行う。
○2010年までに、イメージング技術により遺伝子・細胞レベルでの薬物の動態を把握し、分子機能を解明して、薬剤候補物質のスクリーニングを大幅に高速化する。【文部科学省】	57	■ ■ ■	引き続き日本をリードする研究拠点として、PET疾患診断研究拠点と創薬候補物質探索拠点の強化を図るとともに、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築する必要がある。また、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。
○◇2010年までに、個人の特性に応じた治療や創薬に資するよう、我が国における主要疾患の関連遺伝子の同定等を行い、個人の特性に応じた予防・治療法や創薬へ繋げるための手法を開発する。【文部科学省】	85	■ ■ ■	個人個人に最適な予防・治療を提供することを可能とする医療の実現に向け、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する。
○◇2010年までに、ファーマコゲノミクスに基づく評価手法を開発する。【厚生労働省】	(26の内数)	■ ■ ■	引き続き、ファーマコゲノミクスに基づく評価手法確立のための研究を行う。

○2010年までに、タンパク質相互作用・ネットワーク解析技術や疾患など生物現象を制御する化合物探索技術、膜タンパク質構造解析技術、疾患モデル細胞の構築技術など創薬効率化のための技術基盤を確立し、創薬ターゲット候補となる新規の重要なタンパク質相互作用情報等の情報を蓄積する【経済産業省】	(127の内数)	■ ■ ■	タンパク質の立体構造に基づいた、効果的な創薬基盤を確立するため、電子顕微鏡や核磁気共鳴法を用いたタンパク質の立体構造解析技術及びin silicoでのタンパク質と化合物の結合予測モデルの構築等、引き続き要素技術の開発を進める。
◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化、より有用な薬剤候補物質の絞り込みの精度向上等の創薬プロセスの高度化を実現するとともに、個人の特性を踏まえた、生活習慣病や難病の予防・早期診断・先端医療技術を実現する。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】	142(及び127の内数)	■ ■ ■	引き続き日本をリードする研究拠点としての強化を図るとともに、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築する必要がある。また、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。
○2010年までに、健康・食料生産・環境等の研究開発に資する遺伝子、培養細胞、微生物、植物、水産生物、有用昆虫、実験用小動物、霊長類及び日本人由来ヒト試料等の生物遺伝資源等の研究、開発、収集、増殖、保存、品質管理及び提供等を推進・強化する【文部科学省、厚生労働省、農林水産省】	85	■ ■ ■	個人個人に最適な予防・治療を提供することを可能とする医療の実現に向け、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する。
○◇2010年までに、現時点で明らかになっている薬剤の乱用物質の毒性・依存性の評価技術を確立する。【厚生労働省】	(26の内数)	■ ■ ■	引き続き、乱用薬物の毒性・依存性評価のための研究開発を行う。
○◇2010年までに、国連ミレニアム開発目標(MDGs)で示された以下の目標の達成に至る方法論について新たな知見を得て、とりまとめる。【厚生労働省】 >2015年までに5歳未満児の死亡率を3分の2に減少させる。 >2015年までに妊産婦の死亡率を4分の3に減少させる。 >HIV/エイズの蔓延を2015年までに阻止し、その後減少させる。 >マラリア及びその他の主要な疾病の発生を2015年までに阻止し、その後発生率を下げる。	1	■ ■ ■	限られた資源の中で、より効果的・効率的な国際協力を実施し、我が国の貢献とプレゼンスを維持・強化する方策を検討する。
○2010年までに、拠点となる医療機関の臨床研究を実施する体制を整え、人材育成を行うことにより、臨床研究基盤を確立する。【厚生労働省】	38	■ ■ ■	現在、次期治験活性化5か年計画により、基盤整備を行っているところであり(H21年度は4年目になる)、引き続き、必要な支援を行う。
◇2015年頃までに、臨床研究、融合領域や感染症分野等の、緊急性を要し人材が薄い分野の人材を十分に確保する。【文部科学省、厚生労働省、農林水産省】	38	■ ■ ■	現在、次期治験活性化5か年計画により、基盤整備を行っているところであり(H21年度は4年目になる)、引き続き、必要な支援を行う。
◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化等による創薬プロセスの高度化を実現するとともに、個人の特性を踏まえた、生活習慣病等の予防・早期診断・先端的な治療技術や、難病の早期診断・先端的治療技術を可能にする。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】	73	■ ■ ■ ■	引き続き、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や人材育成をさらに充実させ、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進するなど、研究開発を実施する必要がある。
○2010年までに、個人の特性に応じた治療や創薬に資するよう、我が国における主要疾患の関連遺伝子の同定等を行うとともに、予防・治療法や創薬につなげるための手法を開発する。【文部科学省、厚生労働省】	182	■ ■ ■	臨床研究を継続し、効果予測判別器の有用性を確認する。
○2010年までに、イメージング技術により遺伝子・細胞レベルでの薬物の動態把握し、分子機能を解明して、薬剤候補物質のスクリーニングを大幅に高速化する。【文部科学省】	57	■ ■ ■ ■	引き続き日本をリードする研究拠点としての強化を図るとともに、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築する必要がある。また、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。
◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化等による創薬プロセスの高度化を実現するとともに、個人の特性を踏まえた、生活習慣病等の予防・早期診断・先端的な治療技術や、難病の早期診断・先端的治療技術を可能にする。【文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省】	239	■ ■ ■ ■	分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制の構築する必要がある。また、各種臓器がんにおいて同定された治療ターゲットを標的とする治療法の基礎開発を実施する。アテロコラーゲン核酸医薬の薬効・薬理を動物実験にて確認し、実行可能性と安全性を検証する臨床研究を行う。新しい画像診断機器の検診への応用と診断能向上の検証研究を実施する。
○2010年までに、がん、糖尿病などの生活習慣病や難病の治療・診断法を開発するための基盤を蓄積し、臨床研究につなげる。特に、生活習慣病に関しては、遺伝要因と環境要因に応じた疾患の原因を探求することにより、新たな予防・治療法へつなげる。【文部科学省、厚生労働省】	182	■ ■ ■	高脂血症治療薬の大腸がん予防介入試験により、有用性の検証を試みる。パピローマウイルスやC型肝炎ウイルスのワクチン療法の基礎研究を継続して成果を確認し、臨床研究にて予防効果を検証する。ピロリ菌感染者の胃粘膜におけるDNAメチル化異常の機序解明研究を継続し、臨床研究にて発がんリスクマーカーとしての有用性を検証する。
○2010年までに、早期がん、難治性がん等の疾患の本態や病態変化を解明し、疾患の早期発見と悪性度の早期診断を実現する技術を開発する。【文部科学省、厚生労働省】	269	■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築し、大学や企業等と連携して、研究開発を実施する必要がある。また、大規模な多施設共同研究を実施し、同定した新規腫瘍マーカーの有用性を確定し、既存の腫瘍マーカーへの優越性を示す。

標的治療等の革新的がん医療技術

がん予防に資する超早期発見技術、がん患者の生活の質に配慮した低侵襲治療や標的治療などの治療技術、生存率向上のための標準的治療技術、がん医療水準向上の中核となる革新的医療の研究を強化する。

○2010年までに、がんに関する基礎研究を臨床研究に橋渡しするための体制を整備し、新たな治療法等を確立し、実用化を可能とする。【文部科学省、厚生労働省】	204	■ ■ ■	実用化が見込まれる有望な基礎研究の成果を積極的に予防・診断・治療へ応用する橋渡し研究を推進し、医療への普及・定着や企業へのライセンスアウトを目指すため、「橋渡し研究支援推進プログラム」における研究拠点を利用した研究を支援する研究費として拡充を検討する必要がある。また、Bebacizumabの効果を明らかにする第Ⅲ相試験を継続する。標準的治療法の開発が求められているがん腫について、多施設共同研究を進め新たなエビデンスを創出する。
○2010年までに、腫瘍(特に早期がん、難治性がん等)、腎疾患、循環器系疾患等の病態変化の早期発見と悪性度の診断をより早期に行うため、細胞の機能変化を高感度、高精度、高速に検出・診断できる分子イメージング機器を開発する。【文部科学省、経済産業省】	87	■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。
◇2015年頃までに、QOLの高い治療法の確立を目指して、アスベストによる悪性中皮腫の簡便かつ低侵襲な早期診断法を確立する。【文部科学省】	87	■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。
◇2015年頃までに、重粒子線による、膵臓がん等の超難治性がんの治療法を確立する。【文部科学省】	168	■ ■ ■ ■	重粒子線がん治療研究の適応拡大を図ると同時に、疾患別・部位別に照射手法の最適化を図る研究が必要である。
◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化、より有用な薬剤候補物質の絞り込みの精度の向上等の創薬プロセスの高度化を実現し、個人の特性を踏まえた、生活習慣病や難病の予防・早期診断・先端医療技術を実現する。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】	57	■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。
◇2015年頃までに、画像診断機器の高度化等による検査の高速化や、生体機能・代謝の可視化による疾患の早期発見技術を実用化する。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】	36	■ ■ ■	引き続き日本をリードする研究拠点としての強化を図るとともに、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築する必要がある。
○2010年までに、非侵襲性診断・治療技術・機器のトータルの感度を10倍超とするなど高度化を実現する。【文部科学省】	87	■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。
○2010年までに、様々な特性を有する分子プローブを開発し、共通基盤的ライブラリを構築する。【文部科学省】	109	■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。また、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。
○2010年までに、腫瘍の発見と悪性度の診断をより早期に行うため、細胞の機能変化を高感度、高精度、高速に検出・診断できる分子イメージング機器を開発する。【文部科学省、経済産業省】	87	■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。
◇2015年頃までに、画像診断機器の高度化等による検査の高速化や、生体機能・代謝の可視化による疾患の早期発見技術を確立する。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】	87	■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。
◇2015年頃までに、低量で無害、より広範囲な化合物群を作成し、化合物の標識方法や動態解析法の開発など分子イメージング技術等を利用し、創薬の高度化を図り、より有用な薬剤候補物質の絞り込みの精度の向上、個人の特性を踏まえた、生活習慣病や難病の予防・早期診断技術・治療先端医療技術を実現する。【文部科学省、経済産業省】	57	■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。
○2010年までに、患者の生体情報や画像診断情報等を高効率で処理し、医療従事者の負担を軽減してより正確な治療を支援するインテリジェント手術システムを開発する【経済産業省】	15	■ ■ ■	インテリジェント手術機器の「使いやすさ」を向上するためのユーザビリティ研究、新技術を活用するためのトレーニングメニューの開発を強力に進める必要がある。さらに技術的優位性を際立たせるための、結紮などの動作を半自動的に精度良く短時間に行う技術開発が中期的な課題となる。また「患者の生体情報や医療従事者の動作情報等を高効率で記録、管理、表示する技術」においては、記録される情報のフォーマットなどの標準化、ソフトウェアのオープン化によるデファクトスタンダード化などの普及活動も視野に入れて進める必要がある。
◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化、より有用な薬剤候補物質の絞り込みの精度の向上などの創薬プロセスの高度化を実現するとともに、個人の特性を踏まえた、生活習慣病や難病の予防・早期診断・先端医療技術を実現する。【文部科学省、経済産業省】	57	■ ■ ■ ■	引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。

<p>◇2015年頃までに、術前における手術計画や術中の画像誘導(*)などにより、精密な手術を実現し、2025年頃までに、診断治療情報の統合等による低侵襲で早期復帰が可能な治療を実現する【経済産業省】(*)画像誘導：手術にMRI、CT、超音波画像などを用いること。</p>	15	■ ■ ■	<p>インテリジェント手術機器の「使いやすさ」を向上するためのユーザビリティ研究、新技術を活用するためのトレーニングメニューの開発を強力に進める必要がある。さらに技術的優位性を際立たせるための、結紮などの動作を半自動的に精度良く短時間に行う技術開発が中期的な課題となる。また「患者の生体情報や医療従事者の動作情報等を高効率で記録、管理、表示する技術」においては、記録される情報のフォーマットなどの標準化、ソフトウェアのオープン化によるデファクトスタンダード化などの普及活動も視野に入れて進める必要がある。</p>
<p>○2010年までに、分子イメージング技術の高度化により、腫瘍の治療に対する反応性の評価、転移可能性や予後予測等、腫瘍の性状評価手法や精神・神経疾患の診断手法、薬効評価手法を開発する。【文部科学省】</p>	109	■ ■ ■ ■	<p>引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。また、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。</p>
<p>○2010年までに、腫瘍の発見と悪性度の診断をより早期に行うため、細胞の機能変化を高感度、高精度、高速に検出・診断できる分子イメージング機器など、臨床現場で活用できるレベルでのバイオ診断機器を開発する。【文部科学省、経済産業省】</p>	109	■ ■ ■ ■	<p>引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。また、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。</p>
<p>○2010年までに、患者の生体情報や医療従事者の動作情報等を高効率で記録、管理、表示する技術を開発する【経済産業省】</p>	15	■ ■ ■	<p>インテリジェント手術機器の「使いやすさ」を向上するためのユーザビリティ研究、新技術を活用するためのトレーニングメニューの開発を強力に進める必要がある。さらに技術的優位性を際立たせるための、結紮などの動作を半自動的に精度良く短時間に行う技術開発が中期的な課題となる。また「患者の生体情報や医療従事者の動作情報等を高効率で記録、管理、表示する技術」においては、記録される情報のフォーマットなどの標準化、ソフトウェアのオープン化によるデファクトスタンダード化などの普及活動も視野に入れて進める必要がある。</p>
<p>◇2015年頃までに、画像診断機器の高度化等による検査の高速化、生体機能・代謝の可視化による疾患の早期発見技術を実用化する【文部科学省、経済産業省】</p>	109	■ ■ ■ ■	<p>引き続き、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築するほか、多様な研究シーズを有する大学や企業等と連携して、共同研究や、人材育成をさらに充実させ、研究開発を実施する必要がある。また、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。</p>
<p>◇2015年頃までに、術前における手術計画や術中の画像誘導(*)などにより、精密な手術を実現し、2025年頃までに、診断治療情報の統合等による低侵襲で早期復帰が可能な治療を実現する【経済産業省】(*)画像誘導：手術にMRI、CT、超音波画像などを用いること。</p>	15	■ ■ ■	<p>インテリジェント手術機器の「使いやすさ」を向上するためのユーザビリティ研究、新技術を活用するためのトレーニングメニューの開発を強力に進める必要がある。さらに技術的優位性を際立たせるための、結紮などの動作を半自動的に精度良く短時間に行う技術開発が中期的な課題となる。また「患者の生体情報や医療従事者の動作情報等を高効率で記録、管理、表示する技術」においては、記録される情報のフォーマットなどの標準化、ソフトウェアのオープン化によるデファクトスタンダード化などの普及活動も視野に入れて進める必要がある。</p>
<p>○2010年までに、がん、糖尿病などの生活習慣病や難病の治療・診断法を開発するための基盤となる知見を蓄積し、臨床研究に繋げる。基盤の蓄積により、我が国で生み出された基礎研究成果を活用・育成することにより、臨床研究を経て、実用化(創薬等)を目指す。また、我が国で生み出された基礎研究成果からトランスレーショナルリサーチにより、実用化を可能とする。【文部科学省、厚生労働省】</p>	182	■ ■ ■	<p>抗腫瘍効果を検証する臨床研究を実施する。</p>
<p>○2010年までに、イメージング技術により遺伝子・細胞レベルでの薬物の動態を把握し、分子機能を解明して、薬剤候補物質のスクリーニングを大幅に高速化する。【文部科学省】</p>	57	■ ■ ■	<p>引き続き日本をリードする研究拠点として、PET疾患診断研究拠点と創薬候補物質探索拠点の強化を図るとともに、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築する必要がある。また、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。</p>
<p>◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化、より有用な薬剤候補物質の絞り込みの精度向上等の創薬プロセスの高度化を実現するとともに、個人の特性を踏まえた、生活習慣病や難病の予防・早期診断・先端医療技術を実現する。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】</p>	57	■ ■ ■	<p>引き続き日本をリードする研究拠点として、PET疾患診断研究拠点と創薬候補物質探索拠点の強化を図るとともに、分子イメージング研究分野におけるオールジャパン体制を構築する必要がある。また、ヒト臨床に向けた橋渡し研究を推進していく必要がある。</p>
<p>○◇2010年までに、と畜場等におけるBSE検査用高感度・迅速検査法、食料・食品中に存在する食中毒菌等の迅速一斉検査法等を実用化する【厚生労働省、農林水産省】</p>	1	■ ■ ■	<p>異常プリオン蛋白質を認識するプローブの開発。</p>
<p>◇2015年頃までに、科学をベースにした透明性・信頼性の高い、食料・食品の安全性に関するリスク評価手法を確立する。【食品安全委員会、文部科学省、厚生労働省、農林水産省】</p>	(47の内数)	■ ■ ■	<p>世界の最新の知見に対応した機敏な情報収集メカニズムが必要である。</p>
<p>○2010年までに、国内外の研究拠点を整備して、感染症の研究を行い、感染症の予防・診断・治療の開発に資する情報・知見を国内外から迅速に収集・共有できるネットワークを構築する。【文部科学省】</p>	79	■ ■ ■	<p>今後は、各拠点間の連携、人材育成の面で取組を更に進めていく必要がある。平成21年度も引き続き事業を推進していく</p>

新興・再興感染症克服科学技術	病原体や発症機序の解明などの基礎研究や、予防・診断・治療の研究、拠点の充実及び人材育成を通じて、新興・再興感染症に立ち向かう技術	○2010年までに、国民の健康を脅かす新興・再興感染症について、診断・予防方法を確立し、国内への侵入監視、効果的な対応計画の立案等を実現する。【厚生労働省】	73	■ ■ ■	緊急の対応が求められている新型インフルエンザ対策にかかる研究、世界情勢の変化の中で、警戒の必要性が高まっているバイオテロに対応するための研究、感染症対策の点検及び再構築、感染症全体の基盤整備を強化するなどの研究を行う。特にワクチンについては、与党PTIにおいても新型インフルエンザ発生に備えて工程表を作成し、研究・開発を推進することが指摘されており、厚生労働省・関係省庁において検討し、必要な研究・開発体制を強化する。
		○2010年までに、行動変容科学に基づくエイズに関する普及啓発・相談手法の開発、利便性の高い検査体制構築や、医療提供体制の再構築を可能とするための研究により、エイズを治療のコントロールが可能な感染症にする。【厚生労働省】	61	■ ■ ■	エイズ対策については、保健分野だけの問題ではなく、社会・政治・文化・経済・人権全ての分野に関わる重要課題であり、全世界で一丸となって対応すべき問題とされている。エイズに関する研究を推進することは、国内のみならず、我が国よりも更に深刻な状況に直面している開発途上国に対する支援にも結びつくものであり、他の先進諸国とも共同しながら、当該事業を積極的に推進する必要がある。
		○◇2009年までに、感染症・稀少疾病等、政策的に対応を要する疾病の診断・治療法の開発に資する研究成果を得るとともに、画期的医療の実用化を可能とする。【厚生労働省】	73	■ ■ ■	緊急の対応が求められている新型インフルエンザ対策にかかる研究、世界情勢の変化の中で、警戒の必要性が高まっているバイオテロに対応するための研究、感染症対策の点検及び再構築、感染症全体の基盤整備を強化するなどの研究を行う。特にワクチンについては、与党PTIにおいても新型インフルエンザ発生に備えて工程表を作成し、研究・開発を推進することが指摘されており、厚生労働省・関係省庁において検討し、必要な研究・開発体制を強化する。
		○2010年までに、BSEや高病原性鳥インフルエンザ等主要な人獣共通感染症を含む家畜感染症の簡易・迅速診断技術や予防技術を開発する。【農林水産省】	7	■ ■ ■ ■	・鳥インフルエンザウイルスの持つNA亜型及び病原性を判定できる信頼性の高いPCR法の開発。 ・PMCA法をBSEプリオンに応用した診断法の開発。
		◇2015年頃までに、国民の健康を脅かす新興・再興感染症について、国民に対する適切な医療の確保への道筋をつけるべく、予防・診断方法の確立や治療法の開発を実現する。【文部科学省、厚生労働省】	151	■ ■ ■	今後は、各拠点間の連携、人材育成の面で取組を更に進めていく必要がある。また、緊急の対応が求められている新型インフルエンザ対策にかかる研究、世界情勢の変化の中で、警戒の必要性が高まっているバイオテロに対応するための研究、感染症対策の点検及び再構築、感染症全体の基盤整備を強化するなどの研究を行う。特にワクチンについては、与党PTIにおいても新型インフルエンザ発生に備えて工程表を作成し、研究・開発を推進することが指摘されており、厚生労働省・関係省庁において検討し、必要な研究・開発体制を強化する。
		◇2015年頃までに、BSEや高病原性鳥インフルエンザ等主要な人獣共通感染症を含む家畜感染症の簡易・迅速診断技術や予防技術を開発する。【農林水産省】	7	■ ■ ■ ■	・鳥インフルエンザウイルスの持つNA亜型及び病原性を判定できる信頼性の高いPCR法の開発。 ・PMCA法を使った生体診断法の開発。
		◇2015年頃までに、臨床研究、融合領域や感染症分野等の、緊急性を要し人材が薄い分野の人材を十分に確保する。【文部科学省、厚生労働省、農林水産省】	94	■ ■ ■	引き続き、感染症分野にかかる人材育成に資する事業を推進する。
		○2010年までに、医薬品開発の初期段階で利用するトキシコゲノミクスデータベース(ラットの肝臓の遺伝子発現データ等)を構築し、肝毒性等の予測システムの運用開始を実現する。【厚生労働省】	25	■ ■ ■ ■	引き続き、データの収集を行うとともに、予測システムの検証を行う。
		○◇2010年までに、日本人における主要疾患(高血圧・糖尿病・がん・認知症等)関連タンパク質を解析・同定し、その結果を活用して、医薬品の研究開発に資する疾患関連蛋白質データベースを構築する。【厚生労働省】	21	■ ■ ■ ■	引き続き、データの収集を行うとともに、システムを活用し検証を行う。
				○2010年までに、個人の特性に応じた治療や創薬に資するよう、我が国における主要疾患の関連遺伝子の同定等を行い、個人の特性に応じた予防・治療法や創薬へ繋げるための手法を開発する。【文部科学省】	85
○2010年までに、個人の遺伝情報に応じた医療に資するため、薬剤反応性の個人差の原因となるSNPsやマイクロサテライト等の探索・解析システムの実現例を示す。【厚生労働省】	54			■ ■ ■	SNPsやマイクロサテライト等の探索・解析システムの開発に対しては、引き続き支援を行う。
◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化等による創薬プロセスの高度化を実現するとともに、個人の特性を踏まえた、生活習慣病等の予防・早期診断・先端的な治療技術や、難病の早期診断・先端的治療技術を可能にする。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】	139			■ ■ ■	個人の特性を踏まえた予防・治療を提供することを可能とする医療の実現に向け、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する
◇2020年頃までに、環境中の生物集団から有用遺伝子を探索・収集し、工業原料や医薬品等の生産に活用する技術を開発する。【文部科学省、農林水産省、経済産業省】	4(及び32の内数)			■ ■ ■	得られた成果を実用化に結びつけるため、周辺環境整備が必要。
○◇2010年までに、動物(昆虫)機能を利用した、医療用モデル動物、有用物質生産技術等を開発する。【農林水産省】	4(及び32の内数)			■ ■ ■	得られた成果を実用化に結びつけるため、周辺環境整備が必要。

世界最高水準のライフサイエンス基盤整備

蓄積された生命情報データの利活用には必須である統合的なデータベースを整備し、研究開発の動向やリソースの質と量の科学的評価を踏まえて生物遺伝資源等を保全・確保・利用する技術

○◇2010年までに、微生物・動植物を用いた有用物質の生産を可能とするための培養・遺伝子組換え技術を開発する。【農林水産省】	4(及び32の内数)	■ ■ ■	得られた成果を実用化に結びつけるため、周辺環境整備が必要。
○2010年までに、個人の特性に応じた治療や創薬に資するよう、我が国における主要疾患の関連遺伝子の同定等を行うとともに、予防・治療法や創薬につなげるための手法を開発する。【文部科学省、厚生労働省】	139	■ ■ ■	個人個人に最適な予防・治療を提供することを可能とする医療の実現に向け、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する。
◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化等による創薬プロセスの高度化を実現するとともに、個人の特性を踏まえた、生活習慣病等の予防・早期診断・先端的な治療技術や、難病の早期診断・先端的治療技術を可能にする。【文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省】	139	■ ■ ■	個人の特性を踏まえた予防・治療を提供することを可能とする医療の実現に向け、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する。
○2010年までに、がん、糖尿病などの生活習慣病や難病の治療・診断法を開発するための基盤を蓄積し、臨床研究につなげる。特に、生活習慣病に関しては、遺伝要因と環境要因に応じた疾患の原因を探索することにより、新たな予防・治療法へつなげる【文部科学省、厚生労働省】	85	■ ■ ■	個人個人に最適な予防・治療を提供することを可能とする医療の実現に向け、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する。
◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化、より有用な薬剤候補物質の絞り込みの精度の向上等の創薬プロセスの高度化を実現し、個人の特性を踏まえた、生活習慣病や難病の予防・早期診断・先端医療技術を実現する。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】	54	■ ■ ■	成果は確実に得られており、個人の特性を踏まえた医療の研究に対しては引き続き支援を行う。
○◇2010年までに、ゲノム創薬、個人の遺伝情報に応じた医療の実現に資するための我が国における主要な疾患の関連遺伝子の同定及びその機能の解明、遺伝子治療製剤の安全性・有効性に関する技術の確立に向けた基盤技術を確立する。【文部科学省、厚生労働省】	139	■ ■ ■	個人の特性を踏まえた予防・治療を提供することを可能とする医療の実現に向け、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する。
◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化、より有用な薬剤候補物質の絞り込みの精度の向上などの創薬プロセスの高度化を実現するとともに、個人の特性を踏まえた、生活習慣病や難病の予防・早期診断・先端医療技術を実現する。【文部科学省、経済産業省】	85	■ ■ ■	個人個人に最適な予防・治療を提供することを可能とする医療の実現に向け、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する。
○◇2010年までに、ファーマコゲノミクスに基づく評価手法を確立する。【厚生労働省】	54	■ ■ ■	ファーマコゲノミクスに関しては、引き続き必要な支援を行う。
○◇2010年までに、医薬品開発の初期段階で利用するトキシコゲノミクスデータベース(ラットの肝臓の遺伝子発現データ等)を構築し、肝毒性等の予測システムの運用開始を実現する。【厚生労働省】	25	■ ■ ■ ■ ■	引き続き、データの収集を行うとともに、予測システムの検証を行う。
○◇2010年までに、日本人における主要疾患(高血圧・糖尿病・がん・認知症等)関連タンパク質を解析・同定し、その結果を活用して、医薬品の研究開発に資する疾患関連蛋白質データベースを構築する。【厚生労働省】	21	■ ■ ■ ■ ■	引き続き、データの収集を行うとともに、システムを活用し検証を行う。
○◇2010年までに、個人の特性に応じた治療や創薬に資するよう、我が国における主要疾患の関連遺伝子の同定等を行い、個人の特性に応じた予防・治療法や創薬へ繋げるための手法を開発する。【文部科学省】	85	■ ■ ■	個人個人に最適な予防・治療を提供することを可能とする医療の実現に向け、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する。
○◇2010年までに、個人の遺伝情報に応じた医療に資するため、薬剤応答性の個人差の原因となるSNPsやマイクロサテライト等の探索・解析システムの実現例を示す。【厚生労働省】	54	■ ■ ■	SNPsやマイクロサテライト等の探索・解析システムの開発に対しては、引き続き支援を行う。
○◇2010年までに、感染症・稀少疾病等、政策的に対応を要する疾病の診断・治療に資する新規ワクチンを開発するとともに、創薬に資するモデル動物の開発を実現する。【厚生労働省】	56	■ ■ ■	本事業は、感染症・稀少疾病等、政策的に対応を要する疾病の診断・治療に資する新規ワクチンなどを開発しており、引き続き、必要な支援を行う。
○◇2010年までに、ファーマコゲノミクスに基づく評価手法を確立する。【厚生労働省】	54	■ ■ ■	ファーマコゲノミクスに関しては、引き続き必要な支援を行う。
◇2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化、より有用な薬剤候補物質の絞り込みの精度向上等の創薬プロセスの高度化を実現するとともに、個人の特性を踏まえた、生活習慣病や難病の予防・早期診断・先端医療技術を実現する。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】	139	■ ■ ■	個人の特性を踏まえた予防・治療を提供することを可能とする医療の実現に向け、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する。
○◇2010年までに、感染症・稀少疾病等、政策的に対応を要する疾病の診断・治療に資する新規ワクチンを開発するとともに、創薬に資するモデル動物の開発を実現する。【厚生労働省】	56	■ ■ ■	本事業は、感染症・稀少疾病等、政策的に対応を要する疾病の診断・治療に資する新規ワクチンなどを開発しており、引き続き、必要な支援を行う。

○2010年までに、世界最高水準の生物遺伝資源(研究開発の材料としての動物・植物・微生物の系統・集団、組織、細胞、遺伝子材料等及びそれらの情報)や臨床情報を含む生体由来試料/バンクを戦略的に整備し、その活用の充実を図る。【文部科学省】	213	■ ■ ■	研究開発の進展や経済的・社会的ニーズ、国際情勢に対応した取り組みに応じるべく、量的観点のみならず、質的観点をより重視するとともに、バイオリソース事業の永続的な運営体制の構築に向けて、引き続きバイオリソースの収集、保存、提供体制の整備、保存技術を始めとする開発事業、ゲノム関連情報を付加した情報の整備を進める。また、事業を担う人材の育成と確保を行うほか、必要な施設・設備の整備及び研究開発を実施する。また、世界最大規模の約30万症例の血液サンプルや臨床情報等を活用し、疾患関連遺伝子研究を実施する
○2010年までに、健康・食料生産・環境等の研究開発に資する遺伝子、培養細胞、微生物、植物、水産生物、有用昆虫、実験用小動物、霊長類及び日本人由来ヒト試料等の生物遺伝資源等の研究、開発、収集、増殖、保存、品質管理及び提供等を推進・強化する。【文部科学省、厚生労働省、農林水産省】	172(及び222の内数)	■ ■ ■ ■ ■	研究開発の進展や経済的・社会的ニーズ、国際情勢に対応した取り組みに応じるべく、量的観点のみならず、質的観点をより重視するとともに、バイオリソース事業の永続的な運営体制の構築に向けて、引き続きバイオリソースの収集、保存、提供体制の整備、保存技術を始めとする開発事業、ゲノム関連情報を付加した情報の整備を進める。また、事業を担う人材の育成と確保を行うほか、必要な施設・設備の整備及び研究開発を実施する。
○2010年までに、収集・保存した植物、微生物、動物、水産生物、有用昆虫等の遺伝資源の形質を評価して、外部から利用可能なアクティブコレクションとして整備する。【農林水産省】	(222の内数)	■ ■ ■ ■ ■	新たな遺伝資源の収集を行うとともに、収集した遺伝資源の評価を進め、一層のコレクションの充実を図る。
○2010年までに、研究・開発関係者への活用の利便性向上に資するため、微生物を中心とした生物遺伝資源の情報を集約し、提供する生物遺伝資源機関ネットワーク構築を実現する。【文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省】	55(及び222の内数)	■ ■ ■ ■	研究開発の進展や経済的・社会的ニーズ、国際情勢に対応した取り組みに応じるべく、量的観点のみならず、質的観点をより重視するとともに、バイオリソース事業の永続的な運営体制の構築に向けて、引き続きバイオリソースの収集、保存、提供体制の整備、保存技術を始めとする開発事業、ゲノム関連情報を付加した情報の整備を進める。また、生物資源の所在に関する研究に引き続き必要な支援を行う。
◇我が国のライフサイエンス研究推進に不可欠な生物遺伝資源等(生体由来試料を含む)を世界最高水準のものとして維持する。【文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省】	135(及び222の内数)	■ ■ ■ ■ ■	研究開発の進展や経済的・社会的ニーズ、国際情勢に対応した取り組みに応じるべく、量的観点のみならず、質的観点をより重視するとともに、バイオリソース事業の永続的な運営体制の構築に向けて、引き続きバイオリソースの収集、保存、提供体制の整備、保存技術を始めとする開発事業、ゲノム関連情報を付加した情報の整備を進める。また、事業を担う人材の育成と確保を行うほか、必要な施設・設備の整備及び研究開発を実施する。
○2010年までに、配列情報や構造情報の他、パスウェイデータ、生物遺伝資源情報、医学情報、文献情報等の多様・多量な情報の網羅的かつ正確な統合に向け、広く国内のライフサイエンス研究者の利用に供するために必要な標準化技術、検索技術、分散処理技術、高速通信技術、データベースマネジメントシステム等、必要な情報技術の開発を実現し、必要な人材を確保する。【文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省】	106	■ ■ ■ ■	統合データベースプロジェクトについては、参画している機関、研究者及び関係者のみならず、ライフサイエンスコミュニティ全体が研究基盤システムとして認知し、本事業成果(サービス)を日々の研究活動の中で利用し、意見をフィードバックする仕組みが形成され、コミュニティ全体の支持、支援が得られる必要がある。生物資源データベースの開発は着実に進んでおり、生物資源の所在に関する研究に引き続き支援を行う。また、農林水産生物ゲノム情報統合データベースについては、関連情報のデータベースの取り込みや、情報のアップデート、統一的なブラウザの提供、利用者の利便性及び管理者のメンテナンス性の向上などを進める。
○2010年までに、バイオインフォマティクスの展開に不可欠なデータベースの高度化・標準化、生物・情報知識融合型のゲノム解析ツールの開発を促進する。【文部科学省】	52	■ ■ ■ ■	文部科学省の統合データベースプロジェクトの段階的移行を行う。
○2010年までに、ゲノム情報及び各種遺伝資源の特性データ、分布状況等を基にしたデータベースを構築する。【農林水産省】	17	■ ■ ■ ■	引き続き、関連情報のデータベースを取り込むとともに、情報のアップデートを行い、常に最新情報の提供を行う。また、統一的なブラウザの提供を行い、利用者の利便性及び管理者のメンテナンス性を向上させる。
◇2015年頃までに、統合化が可能で、かつ適切なデータを対象に、ゲノム情報及び各種遺伝資源のデータ、医学情報等を含む統合データベースを構築する。【文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省】	106	■ ■ ■ ■	統合データベースプロジェクトについては、参画している機関、研究者及び関係者のみならず、ライフサイエンスコミュニティ全体が研究基盤システムとして認知し、本事業成果(サービス)を日々の研究活動の中で利用し、意見をフィードバックする仕組みが形成され、コミュニティ全体の支持、支援が得られる必要がある。
○◇2010年までに、新たな生命倫理の課題について国民の意識を把握し、合意形成に向けた土台作りを行う。【内閣府、文部科学省、厚生労働省、経済産業省】	1	■ ■ ■ ■	近年のライフサイエンス研究の急速な発展は、生命倫理に関する新たな諸課題を生み出していることから、これらへの対応に必要となる規制の枠組み等に係る検討を引き続き行う。 特に、ヒトES細胞等からの生殖細胞の作成・利用については、引き続き具体的な要件等を含め、その是非について検討を行う。
○2010年までに、国内外の研究拠点を整備し、拠点での研究を通して感染症分野の優れた人材を増加させる。【文部科学省】	79	■ ■ ■ ■	今後は、各拠点間の連携、人材育成の面で取組を更に進めていく必要があり、平成21年度も引き続き事業を推進していく
◇2015年頃までに、臨床研究、融合領域や感染症分野等の、緊急性を要し人材が薄い分野の人材を十分に確保する。【文部科学省、厚生労働省、農林水産省】	79	■ ■ ■ ■	今後は、各拠点間の連携、人材育成の面で取組を更に進めていく必要があり、平成21年度も引き続き事業を推進していく

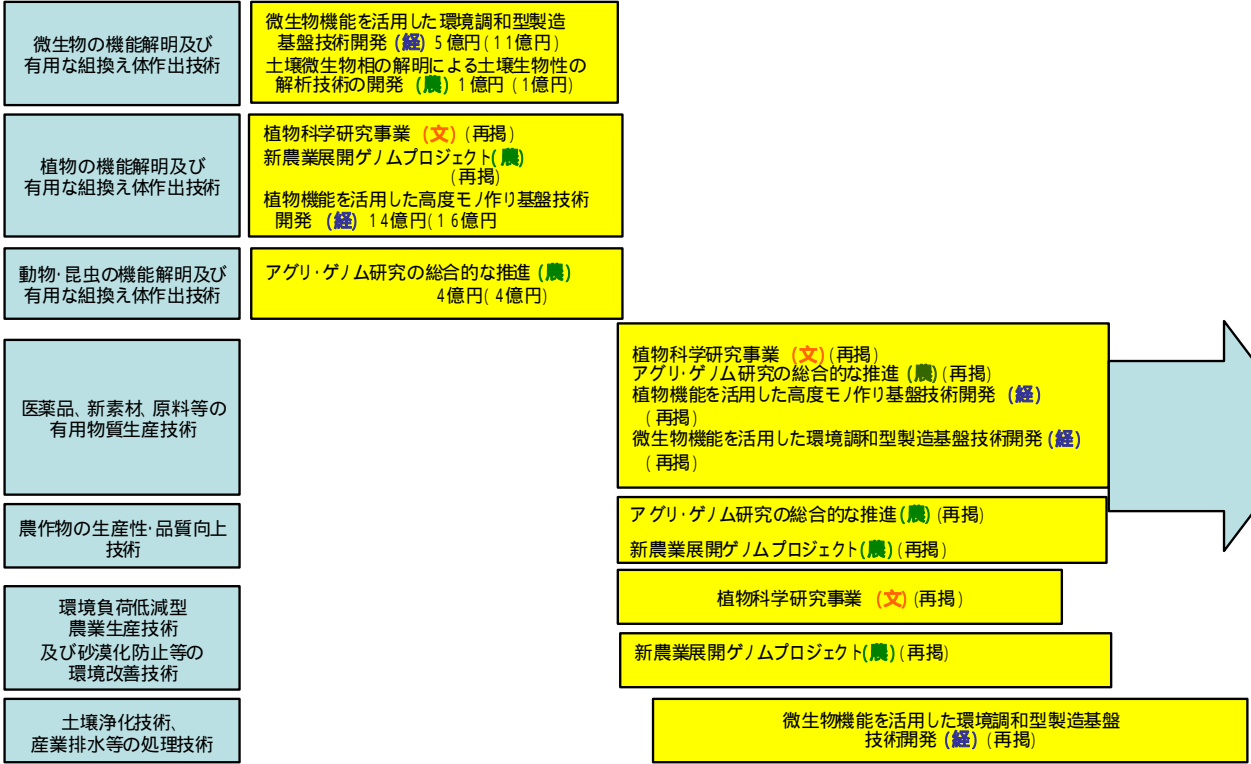


ライフサイエンス
分野

戦略重点科学技術：生物機能活用による物質生産・環境改善科学技術

[予算総額 25億円(34億円)]

個別技術



目標
生物機能活用による高度・効率的な物質生産

目標
生物機能活用による環境改善・負荷低減

戦略重点科学技術該当施策 担当省: (文):文部科学省、(農):農林水産省、(経):経済産業省

L-3

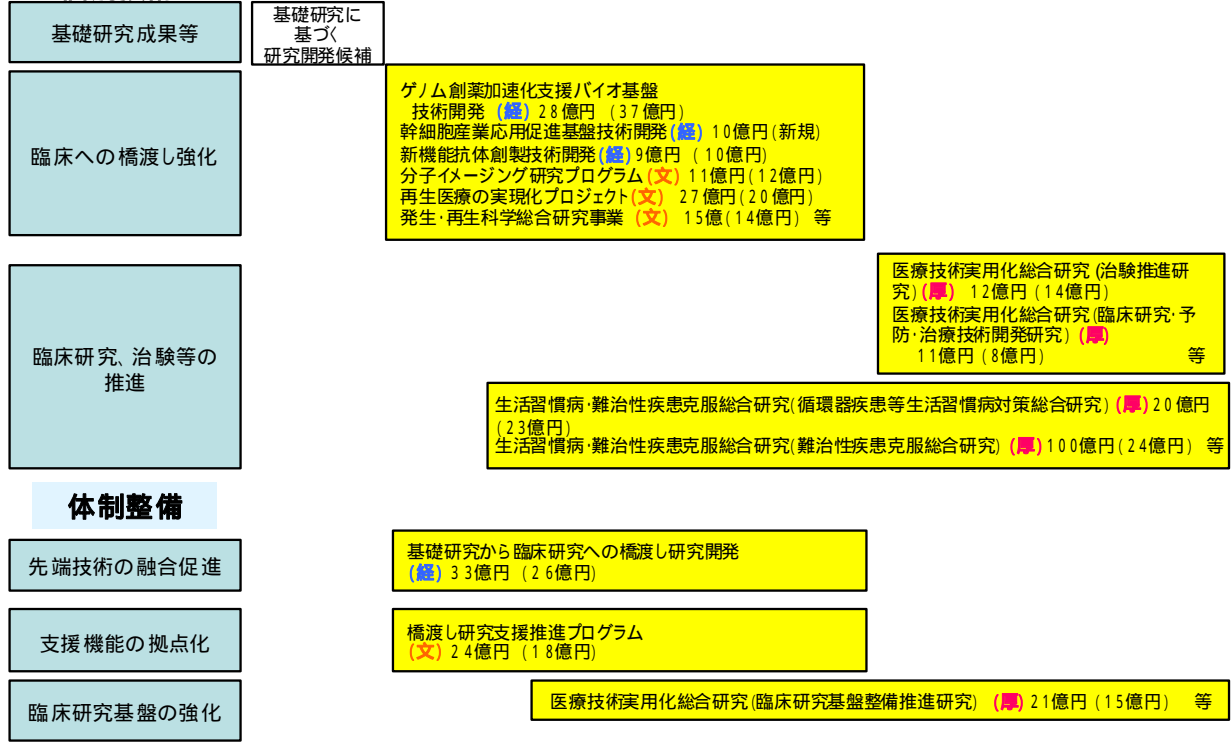


ライフサイエンス
分野

戦略重点科学技術：臨床研究・臨床への橋渡し研究

[予算総額 47.6億円(36.3億円)]

個別技術



目標
国民への画期的治療薬・医療機器・医療技術の迅速な提供

戦略重点科学技術該当施策 担当省: (文):文部科学省、(厚):厚生労働省、(経):経済産業省

L-4



ライフサイエンス分野

戦略重点科学技術： 標的治療等の革新的がん医療技術

[予算総額 82億円(9.5億円)]

個別技術

基礎・基盤

開発

臨床

基礎・基盤研究

ゲノム創薬加速化支援バイオ基盤技術開発(経)再掲
第3次対がん総合戦略研究(農)(再掲)
【参考施策】研究者の自由な発想に基づく研究(特定研究がん(文)等)

がんのトランスレーショナルリサーチの推進

第3次対がん総合戦略研究(農)58億円(65億円)
橋渡し研究支援推進プログラム(文)(再掲)

予防法の開発

第3次対がん総合戦略研究(農)(再掲)

診断薬・診断機器の開発

第3次対がん総合戦略研究(農)(再掲)
分子イメージング研究プログラム(文)再掲等

治療薬・治療機器の開発

第3次対がん総合戦略研究(農)(再掲)
重粒子線がん治療研究(文)17億円(16億円)
インテリジェント手術機器研究開発プロジェクト(経)6億円(8億円)

標準治療確立のための臨床研究

第3次対がん総合戦略研究(農)(再掲)

医療情報システム等の構築及び人材育成

第3次対がん総合戦略研究(農)(再掲)
粒子線がん治療に係る人材育成プログラム(文)0.8億円(0.8億円)

戦略重点科学技術該当施策

基礎

応用

普及・展開

担当省：(文)：文部科学省、(農)：厚生労働省、(経)：経済産業省

新予防法の確立
早期診断法の向上
革新的治療・標準治療の確立
均てん化の実現

目標

革新的がん医療科学技術の確立

L-5

ライフサイエンス分野

戦略重点科学技術： 新興・再興感染症克服科学技術

[予算総額 83億円(85億円)]

個別技術

我が国及びアジア地域の拠点の充実及び人材養成

感染症対策総合研究(農)62億円(60億円)
新興・再興感染症研究拠点形成プログラム(文)21億円(2.5億円)

我が国及びアジア地域にとってリスクの高い、新興・再興感染症、動物由来感染症の予防・診断・治療技術

新興・再興感染症研究拠点形成プログラム(文)(再掲)
感染症対策総合研究(農)(再掲)
鳥インフルエンザ、BSE等の高精度かつ効率的なリスク管理技術の開発(農)(再掲)
食の安心・安全確保推進研究(農)(再掲)
食品健康影響評価技術研究(食)(再掲)

戦略重点科学技術該当施策

基礎

応用

普及・展開

は戦略重点科学技術「国際競争力を向上させる安全な食料の生産・供給科学技術」に該当する関連施策

担当府省：(食)：食品安全委員会、(文)：文部科学省、(農)：厚生労働省、(農)：農林水産省



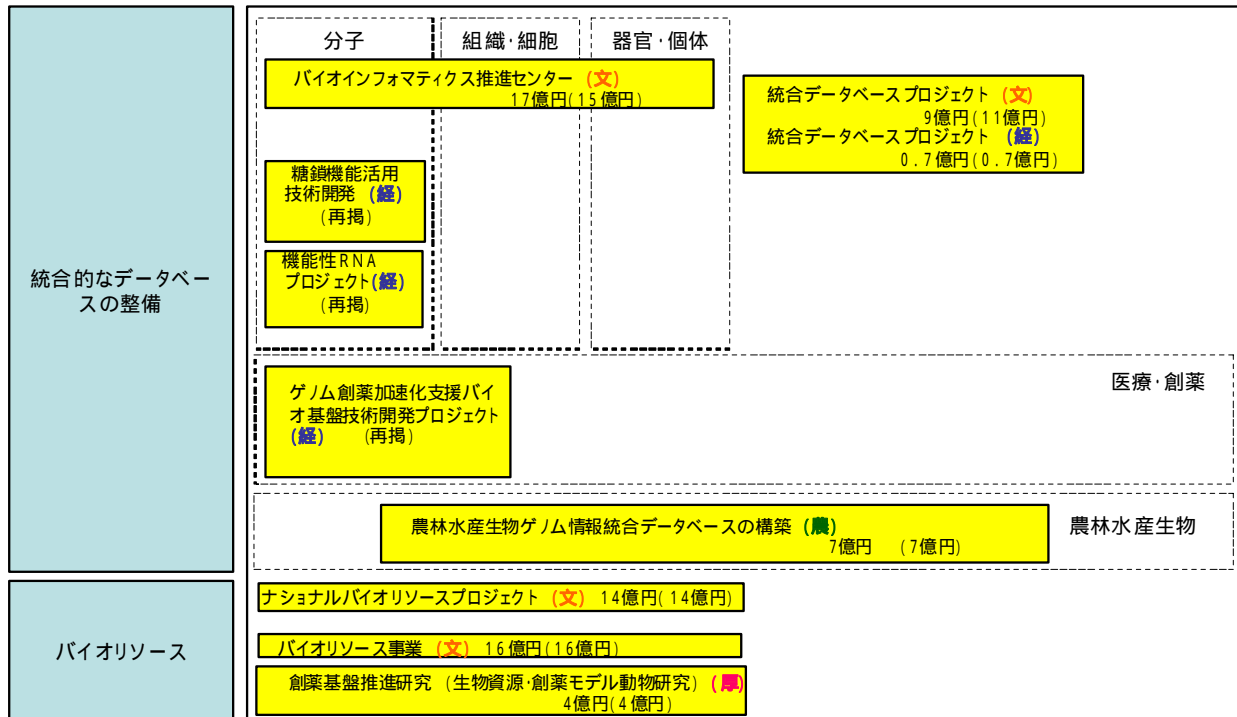
目標

新興・再興感染症に対する国民の安心・安全の確保に貢献

L-6



個別技術



目標
世界最高水準のライフサイエンスデータベースの構築
生物遺伝資源等の保全 確保利用



戦略重点科学技術該当施策

基礎

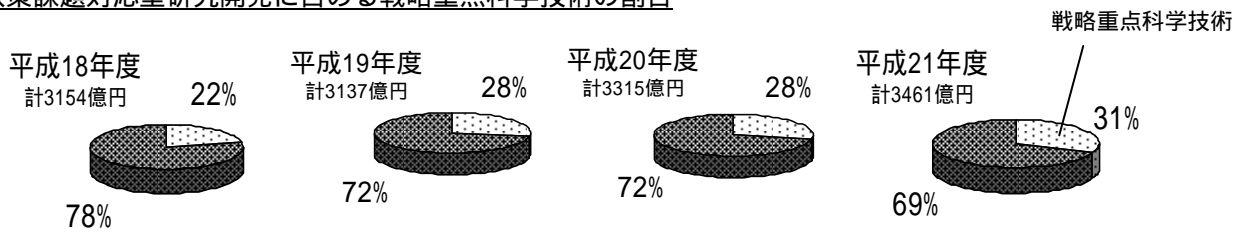
応用

普及・展開

担当省:(文):文部科学省、(経):経済産業省、(厚):厚生労働省、(農):農林水産省

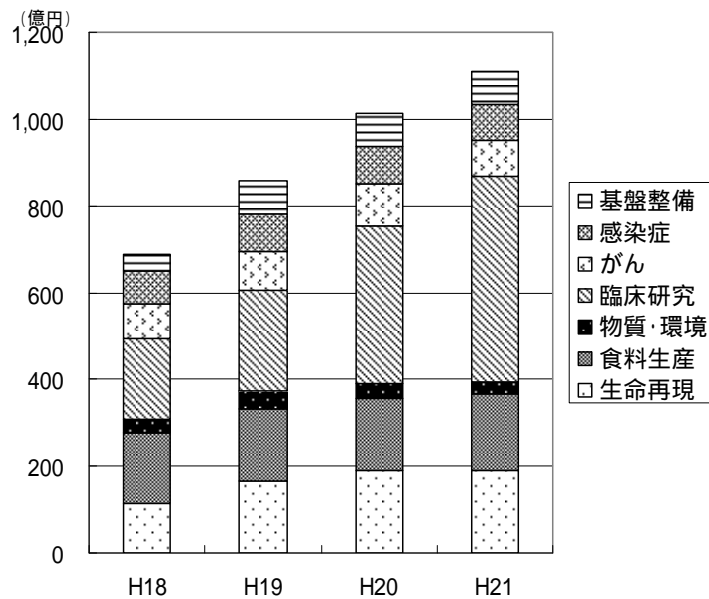
別紙 2.1.4 ライフサイエンス分野における戦略重点科学技術の予算の状況

政策課題対応型研究開発に占める戦略重点科学技術の割合



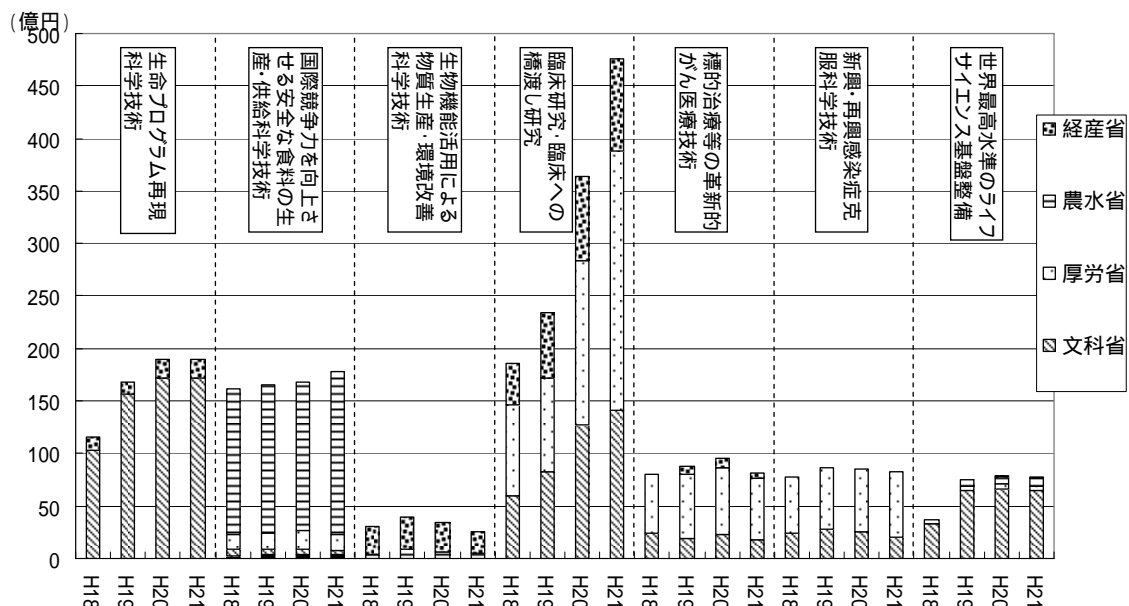
各年度の政府予算案決定時に各府省から提出されたデータに基づき内閣府が集計した。競争的資金、独立行政法人運営費交付金等については、過去の配分実績または配分見込みを基に按分した推計値を使用している。

戦略重点科学技術内訳



平成 21 年 4 月内閣府調査による。各府省から提出された戦略重点科学技術の施策毎のデータに基づき集計した。重複計上が無いよう施策の内容に応じて、按分等の処理を行っている。

戦略重点科学技術府省別予算



平成 21 年 4 月内閣府調査による。各府省から提出された戦略重点科学技術の施策毎のデータに基づき集計した。重複計上が無いよう施策の内容に応じて、按分等の処理を行っている。